第3章

ＫＹ活動

はじめに

各種の社会福祉施設では、運営方針の第一に利用者の安全・安心の確保と維持を掲げていますが、ここでは施設職員の安全衛生の確保を対象として取組みを解説します。利用者の安心・安全を確保するためには、まず職員自身が安全衛生の確保について正しい知識と的確な行動を身につける必要があるからです。また、自分自身の安全衛生について考え行動する過程で利用者への安全配慮の意識向上も期待できます。

安全衛生の確保に係る活動として危険予知活動（以降ＫＹ活動と記載）があります。ＫＹ活動は、利用者の安全確保についても活用ができますが、その場合は、ＫＹ活動の対象を、職員（自分）と利用者とをハッキリと区別して取組む必要があります。業務・行動対象を混在（自分・利用者）させますと、内容が広範囲になり焦点が曖昧になります。このことから、ここでは職員の安全衛生の確保に係る活動の解説を進めます。

１　危険予知（ＫＹ）活動とは

ＫＹ活動と危険予知訓練

職場で実践することをＫＹ活動といい、危険予知訓練（以降ＫＹＴと記載）と区別していますが、職場のＫＹ活動を高いレベルのものにしようとすれば、そのための根気強い毎日のトレーニングが必要となります。したがって、ここまでは訓練であとは活動というように、ハッキリ区別することはできません。

なお、危険予知訓練のＫＹＴとは、危険（キケン）のＫ、予知（ヨチ）のＹ、訓練（トレーニング）のＴをとって、ＫＹＴと略称されています。

１　みんなで危険を予知して「安全衛生先取り」の話し合い

労働災害を防止するには、事故を起こして後悔する前に、職場のみんな（チームワーク）で話し合って、危険を予知して「安全衛生を先取り」することが重要です。

その安全衛生先取りのために・・・・。

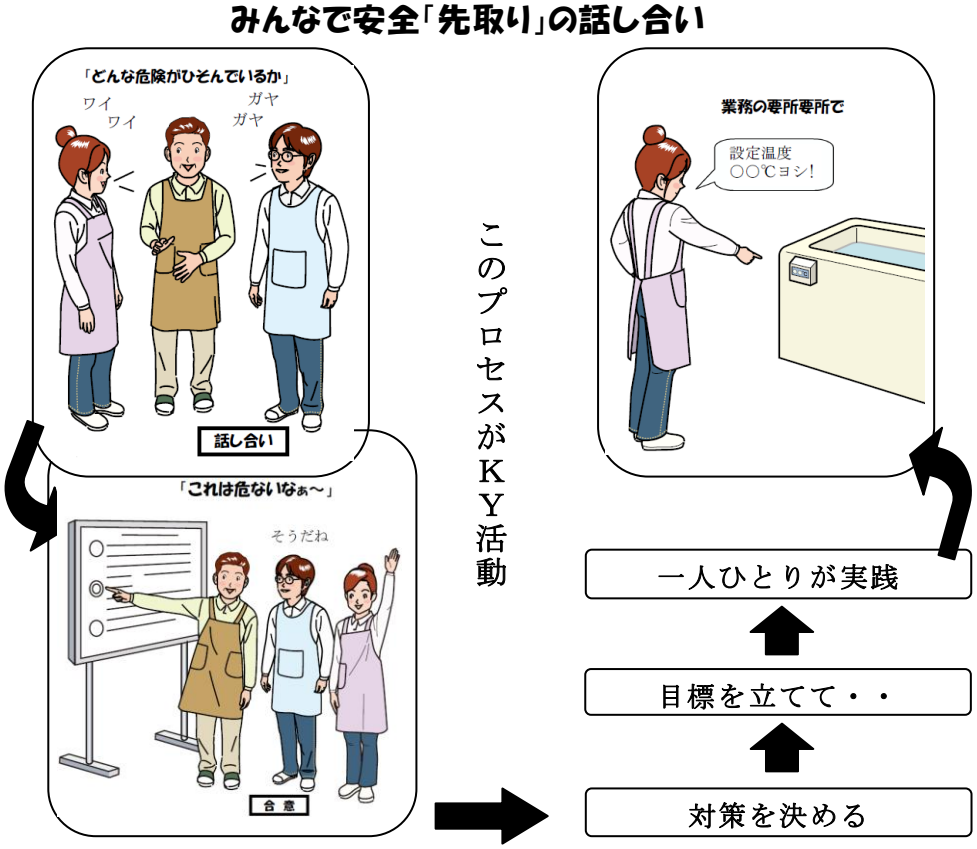
まず、業務を始める前に、イラストシートを使って、あるいは現場で実施したり、させたりして、その業務に「どんな危険がひそんでいるか」を職場でサッと話し合い、「これは危ないなぁ」と危険のポイントについて合意します。

次いで、対策を決め、行動目標や指差し呼称項目を決め、一人ひとりが業務の中で指差し呼称で確認し、行動する前に危険を防止します。このプロセスがＫＹ活動です。

人間は誰でも、つい「ウッカリ」したり「ボンヤリ」したり、錯覚をします。横着して近道や省略もします。このような人間の行動特性が誤った動作などの不安全行動（ヒューマンエラー）をもたらし、事故・災害の原因となります。

事故・災害の多くはヒューマンエラーが元となっています。

このヒューマンエラー事故をなくすためには、機械設備など物の面の対策と、安全衛生についての知識・技能教育などの管理面の対策がまず必要です。そしてそれに加えて、一人ひとりが危険に対する感受性を鋭くし、行動の要所要所で集中力を高めることが欠かせません。ＫＹ活動は、このための活動です。



２　災害のほとんどは不安全行動（ヒューマンエラー）が引き金

図 3-1-1 は、製造業における労働災害原因別の割合を示したものです。

①　慌てて走りだす等の人の不安全な行動が原因であるものが 7.7%

②　不安全な行動と床が濡れたままになっている等の不安全な状態の両方が原因となるものが 89.2%を占めています。

③　人の不安全行動が関わるものとして、この①と②を合わせると実に 96.9%を占めています。ＫＹ活動は、この 96.9%の不安全な行動に着目して危険予知活動を進めているのです。

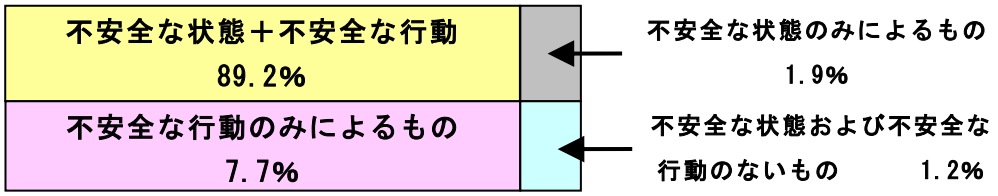


図 3-1-1　災害原因の比率（製造業、労働災害休業４日以上）

（資料出所：安全衛生情報センター「平成 19 年 労働災害原因要素の分析」）

３　不安全行動（ヒューマンエラー）の原因

不安全行動を引き起こす原因は、次表のようにいろいろあります。

表 3-1-1　不安全行動の原因

人間特性	①人間の能力ではできないという「無理な相談」、「出来ない相談」、例えば暗くてまたは明るくて見えない、騒々しくて聞こえないなど ②取り違い、勘違い、考え違いなどの判断の「錯誤」、「誤判断」 ③ウッカリ、ボンヤリの見間違いなど ④思い込み
教育・訓練不足	安全な業務の進め方に関する教育・訓練不足
ルール違反	決められたルールを守らないなど近道反応、省略行為

ヒューマンエラーがなぜ、どうして起ったか、その原因を考え・分かり合うのがＫＹ活動なのです。みんなで問題を出し合い、対策と行動目標をつくり、それを実行に移します。

ヒューマンエラーそのものは事故原因ではなく、それを引き起こした要因が事故原因なのです。なぜウッカリしたのか？　なぜ見誤ったのか？　その「なぜ」が原因となります。

４　安全衛生推進の重要な柱

安全衛生を推進しようとするとき、「トップの経営姿勢」「管理者による実践」「職場自主活動の活発化」が重要な柱となります。この３つの柱が相互に関連し合い、支え合って、安全衛生活動を推進することができます。

（１）トップの経営姿勢

安全衛生はまずトップの厳しい経営姿勢に始まります。「働く人一人ひとりが大事だ」、「一人もケガ人は出すまい」というトップの人間尊重の決意から活動がはじまります。これはトップが人間尊重の心を経営の基本の第一に据えて、職員の家庭にまで思いをはせ、一人ひとりの職員の職業生活を安全に、健康に全うさせることこそ企業責任であることに気づくことが大切で、労働災害ゼロへの発想の転換はまずトップからということになります。

この活動でいう経営トップとは、経営者のことだけを言っているのではありません。施設運営に携わる、それぞれの職場で一般職員に安全衛生活動を進めてもらう立場の管理者、責任者を含んでいます。経営トップや管理者、責任者の「安全衛生活動に対する熱い想い」を一般職員にきちんと伝えることで、それが部下の心に響いて自主的な安全衛生活動がはじまるのです。

（２）管理者による実践

安全衛生を推進するには、管理者である施設長、課長、係長、責任者（リーダーなど）が日常業務の中に安全衛生を一体に組み込んで率先垂範して実践することが大切です。このことを安全衛生の管理者による実践といい、これが２本目の柱です。

部下の安全衛生の確保は管理者本来の任務です。「自分の部下は誰一人ケガをさせない」という管理者の強い決意と実践がなければ、安全衛生の推進は望めません。部下一人ひとりをきめ細かく指導・援助するのは、管理者でなければ不可能だからです。これは「一人ひとりカケガエノナイひと」という管理者の熱意と情熱が本物であるかどうかが、日常の細々としたことを通じてためされるということでもあります。

いったん事故が起きると、日頃の安全衛生の管理に対する取組み姿勢が直ちに問われます。管理責任上言い訳は許されない場合も出てきます。さらに事故の犠牲となった本人や家族に対する気骨の折れる対応もあります。しかも、そうした管理者の態度を職員（部下）の全員が見ています。そして、それぞれが感じ取った管理者の印象がそのまま明日からの職場の動きに反映してきます。

こうしてみると、管理者の日頃の率先垂範と安全衛生に対する取組み姿勢が非常に重要といえます。

（３）職場自主活動の活発化

労働災害のほとんどにヒューマンエラーが伴っており、被災した本人だけに責任を転嫁することはできません。自分は家族や係累をもつかけがえのない存在だと気づいて、安全と健康を自分自身、ひいては仲間同士の問題としてとらえていくことから職場自主活動が始まります。こうしたエラーする人間同士であることを出発点として、職場のチームが就業時間内にサッと、本音で話し合い、その協同努力で進めていくことが重要です。

一人ひとりが「自分は決してケガをすまい」、「仲間からケガ人を出すまい」、そのためにみんなで「こうやろう」、「こうしよう」、という実践活動をしていくことが職場の日々の安全衛生の確保につながっていきます。

職場の第一線は、たとえ業務を一人で行うことが多い職場であっても、通常何らかの小集団となっています。安全衛生問題（危険）の解決のためには、この小集団による職場自主活動の活発化の意義と役割が重要です。

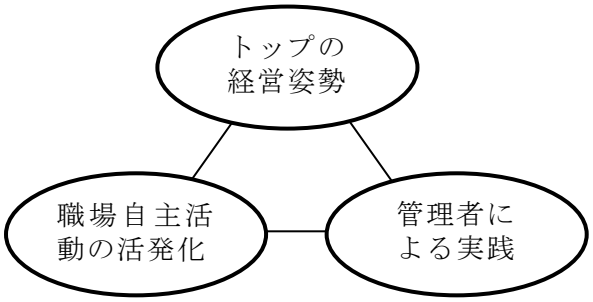


図 3-1-2　安全衛生推進の重要な柱

５　管理活動と職場自主活動で相乗効果

職場の安全衛生を確保するには、自主的な職場のチームワークで「みんなで早く正しく」先取りする活動が求められます。

だからといって、どんどん職場に安全衛生活動を押し付けてやらせる方法では自主的な活動を期待することはできません。

安全衛生活動の基本は、全員参加です。経営者はもとより、管理者である施設長や課長、係長そして一般職員まで、全員の参加が不可欠です。全員参加といっても、経営者から一般職員までＫＹＴや指差し呼称をやるということではありません。施設全員の人が立場・持場のそれぞれの職責において、それぞれが任務と役割と責任を果たすということです。

従って、理想的な安全衛生活動とは、管理者側の責任（トップダウン）と一般職員側の職場自主活動（ボトムアップ）とが重なり合って大きな成果を得ることになります。

管理活動(トップダウン)
　経営者、管理者は、安全衛生活動の方針と活動支援策を提示し、職場から上げられた問題についても解決の支援を行う。
職場自主活動（ボトムアップ）
　一般職員は、方針を受け業務上の危険や問題について日々ミーティングを進めてチームワークで問題解決を図る。

６　ＫＹ活動で職場風土づくり

ＫＹ活動は、単に危険の解決だけを目指しているのではありません。最終的には　安全衛生の先取りと全員参加の明るい生き生きとした“職場風土づくり”を目指すものです。職場で何が危険かのホンネの話合いを毎日、短時間ミーティングの中で繰返すことで、安全衛生を先取りする感受性が鋭くなり、チームワークも強くなります。これによって安全衛生だけでなく、すべての職場の問題解決を自主的に行えるようになります。

長い眼でみれば、自分だけでなく、利用者の安全衛生についての問題も同時に解決できるようになるのです。(図 3-1-3)

さらに職場の人間関係も、コミュニケーションも、チームワークも良くなります。つまり、職場風土が変って行くなかで、ＫＹ活動の定着もはじめて可能となるのです。

職場風土を安全衛生活動との関係から見てみると図 3-1-4 でよく理解できると思います。

職場風土としてルール、マナー、エチケットが出来ている職場、社内基準、作業標準を守れる職場・・・こんな職場でＫＹや指差し呼称が有効であって、その逆の作業基準が守れない職場風土の職場でＫＹや指差し呼称を行っても効果は見込めません。



図 3-1-3　ＫＹ活動のめざすもの

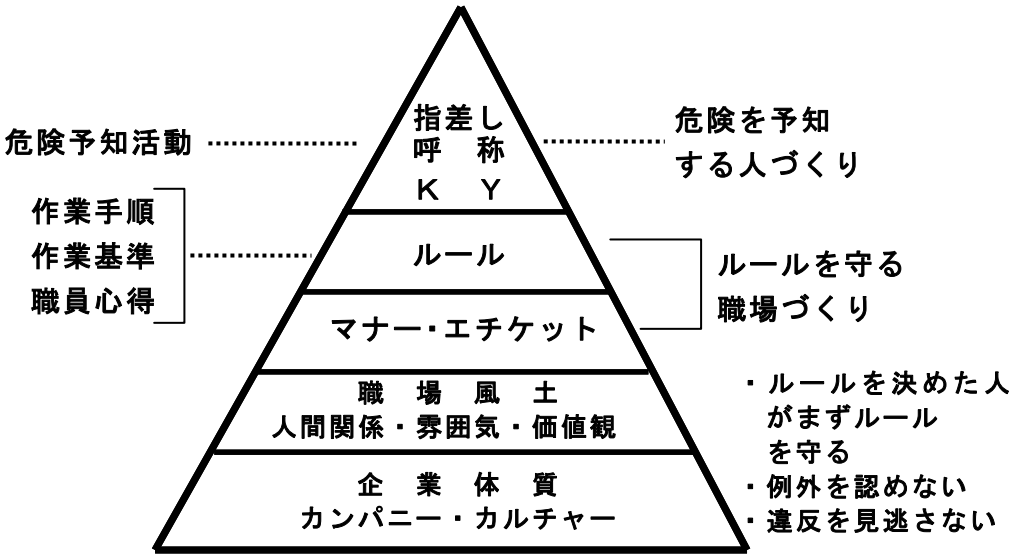


図 3-1-4　職場風土と安全衛生活動の関係図

７　業務と一体のＫＹ活動

「安全衛生先取り」の手法であるＫＹ活動も、月に一度、半月に一度の実施ではヒューマンエラー事故の防止にはあまり効果は望めません。その時は感受性が鋭くなったとしても時間が経てば鈍ってしまい、安全な行動の日々の実践にはつながらないからです。

そして、現場の危険は待ってくれません。一瞬一瞬、危険の内容も変わります。

そこで、これに対応するためには毎日毎日、さらには非定常的な業務が入れば、その直前に、その日に行う業務の危険について短時間のミーティングで話し合うことが必要となってきます。

「危ないことを本当に危ない」と感じる危険に対する感受性も、一人ひとりの安全な行動へのヤル気も、毎日、要所要所でのＫＹ活動を行うことによって高まります。

そのためには、イラストシートを使って、あるいは現場で現物で、サッと短時間で「話し合い、考え合い、気付き合い、分かり合って」みんなのヤル気で行動目標を設定し、必ず実践することが大切です。「みんなで早く正しく」危険予知するには、毎日毎日の訓練が必要なのです。

この活動は、毎日の業務の中に組み込んで進めることが定着のポイントです。

製造業等の業界では、業務と一体のものとして日々実践する取組みを行っており、これを「ＫＹサイクル」と呼んでいます。ＫＹサイクルには、指差し呼称や指差し唱和などの各種の安全手法を組込みます。

一日のサイクルを「業務前」「業務中」「業務後」の３つに分けて安全で事故のない業務を進めます。（図 3-1-5）

このように業務と一体となった安全衛生活動は、結果として風通しの良い職場、コミュニケーションの良い明るい職場、チームワークの良い生き生きとした職場風土づくりが出来ます。

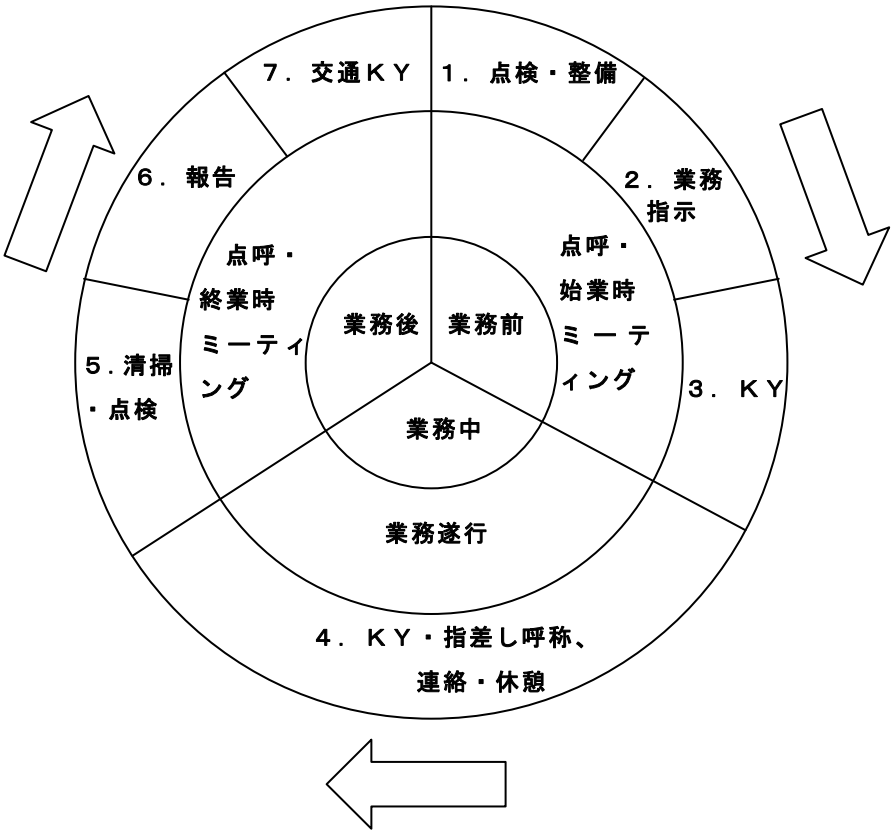


図 3-1-5　業務と一体のＫＹ活動

８　チームミーティングを活発化させてＫＹサイクルを回す

一方的な指示、命令、伝達、指導のみの形式的なミーティングでは、進んで行動しようという意欲につながりません。チームミーティングは「話し合い、考え合い、分かり合う」というチームの合意の中から自ら進んで考え、行動するやる気の職場を育てます。日々の仕事の流れの中に積極的に安全衛生活動を取り入れ、管理監督者やリーダーが職員との間で、日常的に双方向の話合いを活発化させることが重要です。このことにより職場のコミュニケーションが向上し、チームワークが高まり職場の雰囲気も明るくなります。

２　指差し呼称、指差し唱和、タッチ・アンド・コール

１　指差し呼称の実践

業務を安全に、誤りなく進めていくことは大変重要なことですが、施設利用者の薬と量、相手先の電話、Fax 番号、料金の振込先等誤ったら大変なことになります。このようなことが無いよう誰でも意識して、あるいは無意識で確認行動を取っているはずです。この確認行動をより確実に、正確に実施するために、指差し呼称について解説し、その実践手法を紹介します。

指差し呼称とは、行動の要所要所で、自分の確認すべきことを「○○○○ヨシ！」と、確認対象に腕を伸ばしてしっかり指差し、はっきりした声で呼称して確認することをいいます。もともと国鉄（旧日本国有鉄道）で創始された日本オリジナルの安全確認法で 100 年の歴史があります。

（１）指差し呼称の有効性

指差し呼称は、人間の心理的な欠陥に基づく誤判断、誤操作、誤作業を防ぎ、事故・災害を未然に防止するのに役立ちます。対象を見つめ、腕を伸ばして指を差し、声を出すことで、意識レベルをギアチェンジして正常でクリアーな状態にします。

故橋本邦衛（日大生産工学部教授）は、意識レベルには５段階あり、日常の定常作業は、ほとんどレベルⅡ（正常でくつろいだ状態）で処理されるので、レベルⅡの状態でもエラーしないような人間工学的な配慮をする必要があると同時に、非定常業務のときは、自分でレベルⅢ（正常で明快な状態）に切り替える必要があり、そのためには指差し呼称が有効であると言っています。（表 3-2-1）

また、ＫＹ活動の実践事例の中でレベルⅣ（過緊張）をレベルⅢに切り替えるためにも指差し呼称が有効であると実証されています。

つまり、意識レベルを引き上げるとき（レベルⅠ、ⅡからレベルⅢへ）のみでなく、意識レベルを引き下げるとき（レベルⅣからレベルⅢへ）にも有効です。

大脳生理学でも、次のような事実が明らかにされています。

①　末梢の筋肉知覚のうち、口のまわりの咬筋（こうきん）の運動を伝える刺激は、脳を的確に処理できる状態にするのに大きな役割を果たします。

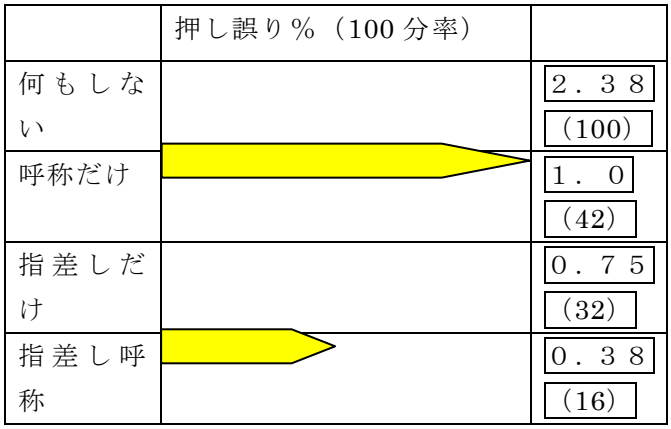
②　腕の筋肉の中の筋紡錘（きんぼうすい）という細胞は、大脳の働きを活発にします。

③　視知覚だけでなく「指差し」による運動知覚、「呼称」による筋肉知覚や聴覚などの諸領域の参加によって、意識に強く印象付けられ、対象認知の正確度が高まります。

表 3-2-1　意識レベルの５段階（日本大学生産工学部教授　故橋本邦衛）

レベル	意識の状態	注意の作用	生理的状態	信頼性
0	無意識	ゼロ	睡眠	ゼロ
Ⅰ	意識ボケ	不注意	疲労、眠気	0.9 以下
Ⅱ	ノーマル	心の内方へ	定常作業時	0.99～0.99999
Ⅲ	クリアー	前向き	積極活動時	0.999999 以上
Ⅳ	過緊張	１点に固執	感情パニック	0.9 以下

平成６年（財）鉄道総合技術研究所が行った「指差し呼称」の効果検定実験結果によると、“なにもしない場合”に比べ“指差し呼称をする場合”には誤りの発生率が約６分の１以下になるということが示されています。（図 3-2-1）



平成６年（財）鉄道総合技術研究所

図 3-2-1　指差し呼称の効果実験結果

（２）指差し呼称のやり方

練習では、指差し呼称の基本形を次のとおり徹底して身につけます。（図 3-2-2）

①目は・・・確認すべき対象を、しっかり見る。

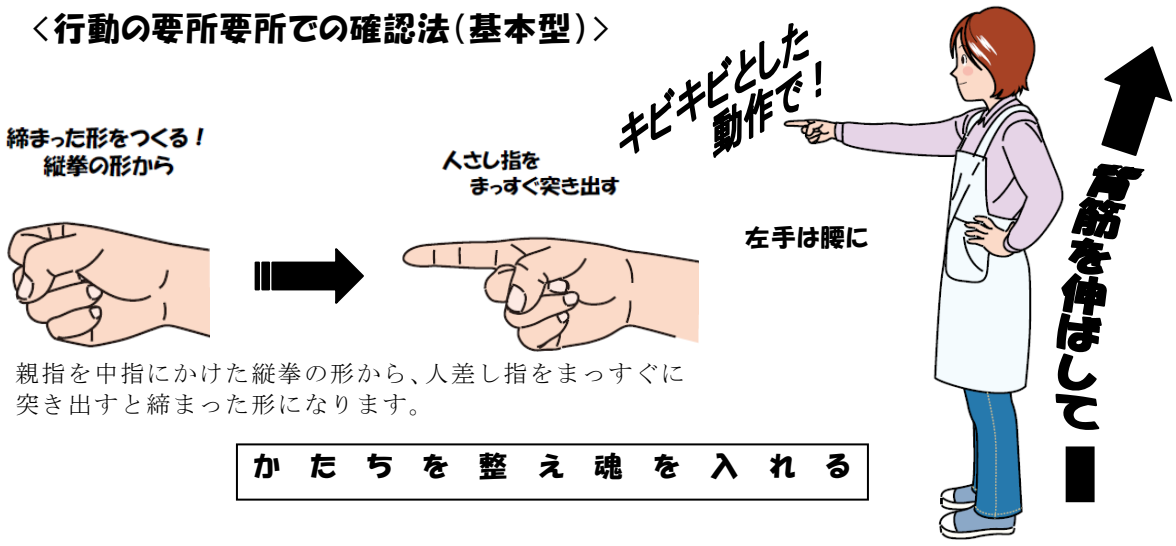
②腕・指は・・・左手は親指が後ろになるようにして手のひらを腰にあてる。右腕を伸ばし、右手人指し指で対象を差す。「○○」のあとで、いったん耳元まで振り上げて、本当に良いかを考えて確かめた上で、「ヨシ！」で振り下ろす。右手は、縦拳（親指を中指の上にかけ、握りの渦巻きを天井に向ける）から人差し指を伸ばす形をとる。

＊左利きの人は、その逆で行う。

③口は・・・はっきりした声で、「○○ヨシ！」、「スイッチ・オンヨシ！」「バルブ開　ヨシ！」などと唱える。

④耳は・・・自分の声を聞く。

目、腕、口、指などを総動員して、自分の作業行動や対象物の状態を確認する手段です。



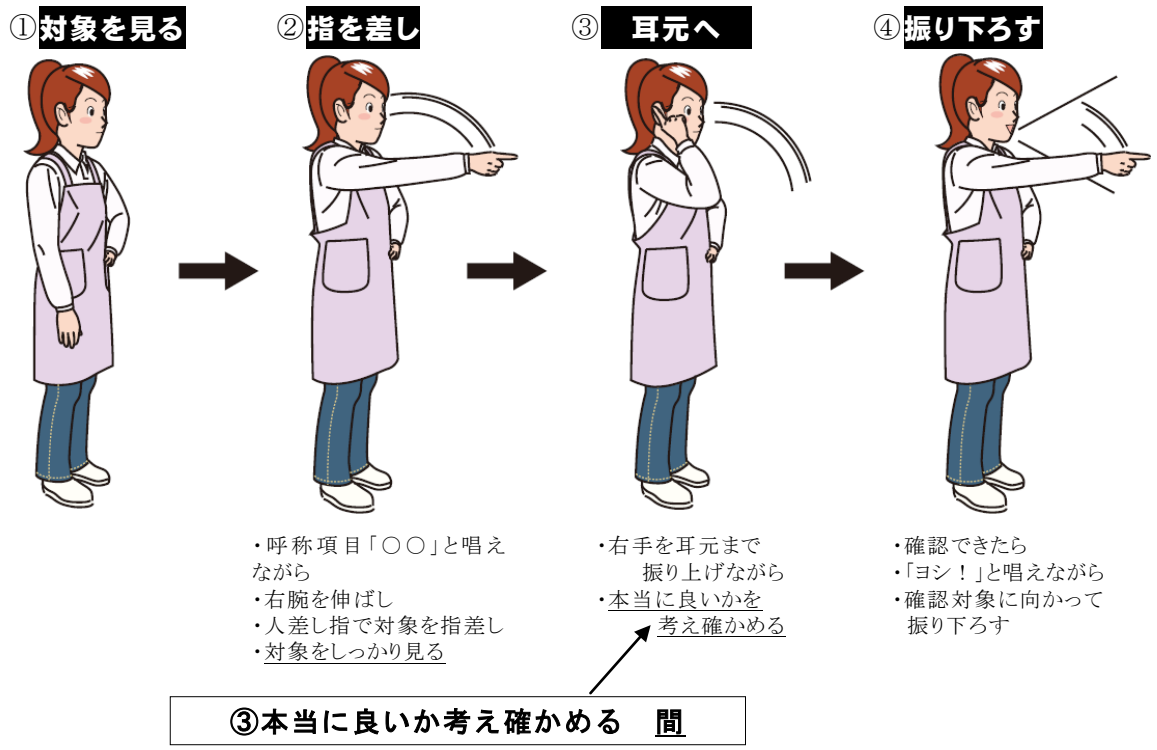


図 3-2-2　指差し呼称の基本形

（３）指差し呼称の正しい動作

①　意識をクリアーな状態にするため、動作には適度の緊張が必要です。きびきびと行うようにしましょう。

②　「呼称」する内容は、注意力を集中させるため「温度　ヨシ！」ではなく、「温度○度　ヨシ！」、「車椅子　車輪　ヨシ！」ではなく「車椅子　車輪固定　ヨシ！」というように、呼称内容は鋭く具体的な表現を工夫します。

③　必要以上に大声を出さなくてもよいのですが、練習では「恥ずかしさ」、「照れくささ」などを吹っ切るために、みんなで大きな声と動作で行います。

④　特に重要な指差し呼称箇所では「○○○○　ヨイカ？」、「○○○○　ヨシ！」と自問自答してしっかり確認します。

ヒューマンエラーを防止するためには、上述のような正しい動作が望ましいのですが、**社会福祉施設においては利用者の前で大きな声や動作ができない場合もあります。それでも、しっかり確認することは必要ですから、声を出さずに手で触れて確認するなど状況に合った方法を工夫しましょう。**ちなみに旅客機の客室乗務や病院の看護の現場などにおいても状況は同じですが、同様に工夫し実践されています。

（４）指差し呼称項目の決め方と確認対象

指差し呼称は行動の要所要所で行いますが、次のようなケースを参考に指差し呼称の必要な箇所を選定します。

①　これまで事故・災害や重大なミスがあった業務

②　手順を間違えた場合に重大な事故・災害に結び付きそうな業務

③　業務が複雑あるいは、類似内容で間違いやすい業務

そして次にあげるようなものを確認の対象とします。

①　人の確認

ａ.自分自身　ｂ.共同業務・・・位置、姿勢、服装など

②　物の確認

ａ.計器類（温度計など）　ｂ.操作機器（電動リフトなど）　ｃ.介護設備（ベッド、車椅子、トイレなど）　ｄ.標識…など

これを呼称したら「問題が解消されたことを確認できる」という内容を指差し呼称項目として設定します。そして、現場・現物で・どういう内容で・この場所でと具体的に決め、全員が同じ動作で行えるよう繰返し練習をしましょう。そして定着のためにも何回も「復習」をしましょう。

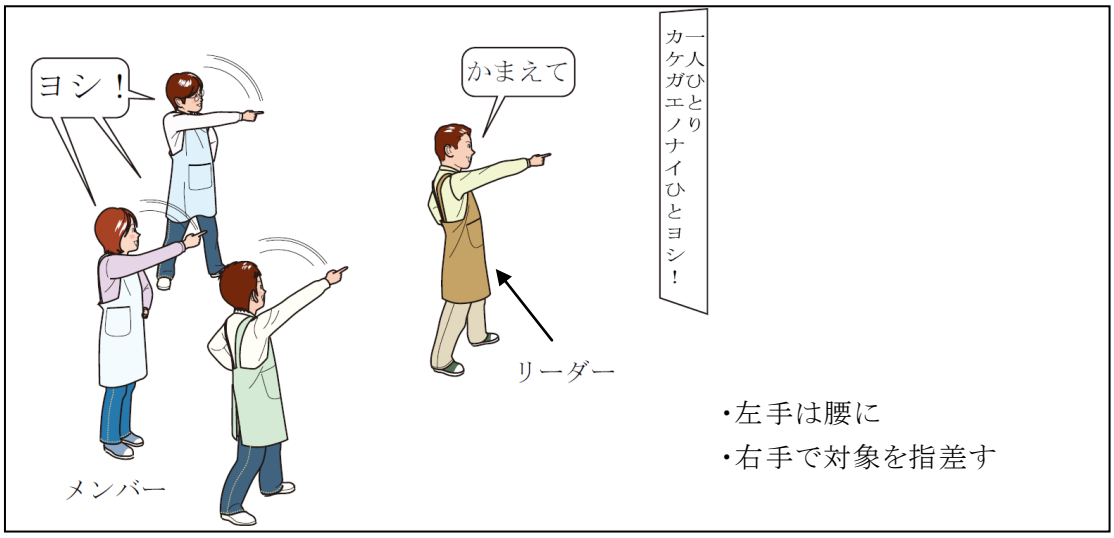
２　指差し唱和の実践

指差し唱和は、全員でスローガン等の対象を指差し、唱和して確認することにより、気合を一致させ、チームの一体感・連帯感を高めることをねらいとした手法です。

一般に、朝礼・終礼時に「一人ひとりカケガエノナイひと　ヨシ！」などのスローガンや、ＫＹＴの確認項目（第２ラウンド：危険のポイント、第４ラウンド：チーム行動目標など）を確認しあったり、実行を誓い合う時などに用いられます。

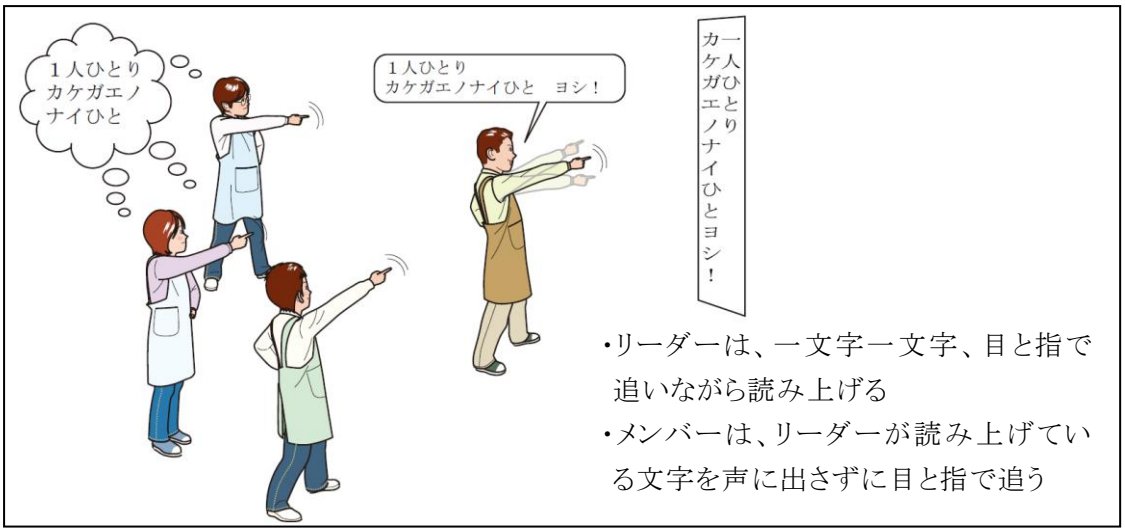
（１）指差し唱和のやり方

①リーダーの合図で全員対象を指で指す



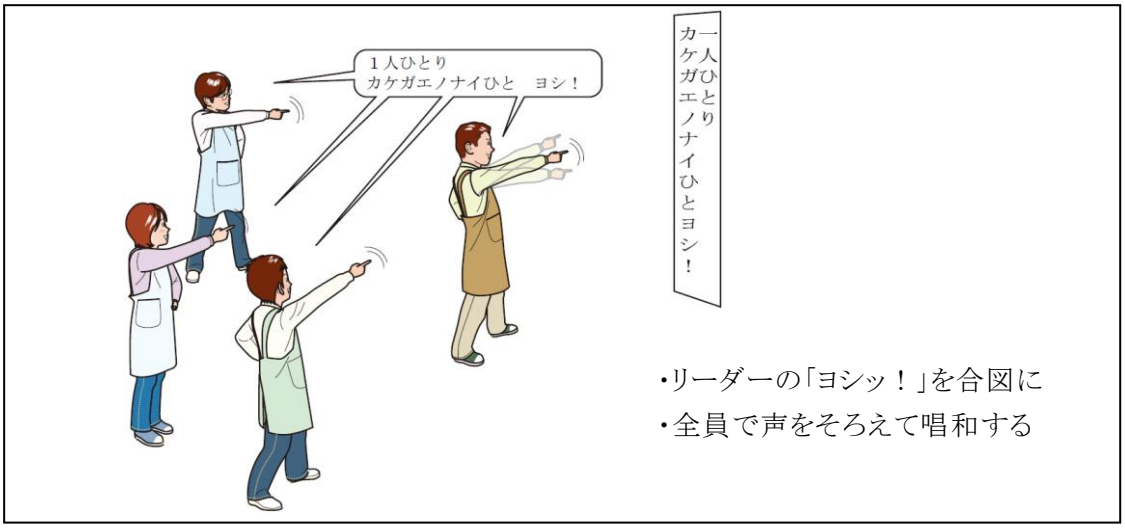
・左手は腰に
・右手で対象を指差す

②リーダーが一度読み上げる



・リーダーは、一文字一文字、目と指で追いながら読み上げる
・メンバーは、リーダーが読み上げている文字を声に出さずに目と指で追う

③全員で唱和する



・リーダーの「ヨシッ！」を合図に
・全員で声をそろえて唱和する

３　タッチ・アンド・コールの実践

バレーボールやサッカー、野球などのチームスポーツで、選手が手をタッチしたり、肩を組んだり、声を出し指を突き上げたりして気合を一致させる行動がよく見られます。これがタッチ・アンド・コールで、職場の業務推進の力として活用しようというものです。

タッチ・アンド・コールは、指差し唱和の一種といえます。その特徴は、チーム全員が手を重ね合わせたり、組み合わせたりして触れ合いながら行います。

全員でスキンシップを行うこのタッチ・アンド・コールはチームの一体感、連帯感を高め、チームワークづくりに役立ちます。同時に、大脳の旧皮質（欲求や感情を司る脳）によいイメージを叩き込み（社会帰属性・・仲間でいたい、ルールを守ろう、ケガをしたくないなど)、無意識に安全行動をするように、ウッカリしたりボンヤリしたりしないようにするのがねらいで、チーム活動のメリハリをつける時などに活用しましょう。

（１）タッチ・アンド・コールのやり方

指差し唱和と同様、リーダーの「～　ヨシ！」に続いて、全員で「～　ヨシ！」と指差し唱和をします。

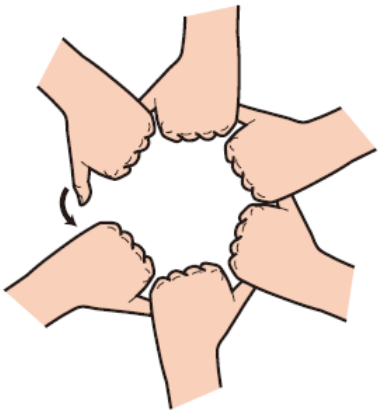
ＫＹＴの研修会で行っているタッチ・アンド・コールの型の例を以下に３種類示します。です。チームの人数に応じて３種類を使い分ければよいでしょう。

①タッチ型（7～8人以上）



・円陣をつくる
・左隣りの人の右肩に左手を置く
・右手人差し指で円陣の中央を指す

②リング型（5～6人）



・円陣をつくる
・左手で左隣りの人の親指を握り合いリングをつくる
・右手人差し指でリングの中央を指す

③手重ね型（4～5人以下）



・円陣をつくる
・リーダーは左手を上向きにして中央に差し出す
・メンバーはその上に左手を下向きにして重ね合わせる
・右手人差し指で重ね合わせた左手を指す

３　健康確認

１　健康確認のねらいと内容

業務にかかる前に、職員の健康状態を確認することは事故防止の上で効果があります。健康確認は、主として始業時のミーティングの際に、職員自らに健康状況を自己チェック（表 3-3-1）させて申告させたり、リーダーが職員一人ひとりの健康状況をよく「観察」したり「問いかけ」して把握し、適切な指導および措置を行います。

健康状態の不調は、不安全行動や事故・災害につながります。これを防ぐには、特に始業時の短時間ミーティングでリーダーが職員の一人ひとりに対して行う具体的で思いやりのある、きめ細かな「健康観察項目」（表 3-3-2）と「健康問いかけ項目」（表 3-3-3）で健康状態を把握し、医師への受診を含めて指導を行い、本人の意思・判断を尊重して、業務上の適切な措置を取って下さい。

表 3-3-1　健康自己チェック項目

１．　頭痛がする
２．　めまいがする、ふらつく、耳鳴りがする
３．　手足にしびれ・けいれん・筋肉痛がある、腰が痛い
４．　腹が痛い、下痢をしている
５．　咳、くしゃみ、鼻水
６．　熱がある、だるい、寒気がする
７．　だるい、ねむい
８．　その他（自覚症状）

（職員自身にチェックさせ異常を感じる項目を自己申告させます）

表 3-3-2　健康観察（リーダー→職員）５項目

１．	**姿勢**	シャンとしているか、うなだれていないか
２．	**動作**	キビキビしているか、ダラダラしていないか
３．	**顔・表情**	イキイキしているか、明るいか、むくんでいないか
４．	**目**	キリッと澄んでいるか、血走っていないか
５．	**会話**	ハキハキとしているか、声の大きさ・ハリは
	その他	必要があれば体温・脈拍・呼吸数を検査する
	（職員一人ひとりよく観察して異常をつかむ）	

表 3-3-3　健康問いかけ項目

１．　よく眠れましたか？　すっきり起きられましたか？
２．　どこか痛いですか？　だるさはありますか？
３．　食欲はどうですか？　食事はおいしいですか？
４．　熱はありますか？　動悸がありますか？
５．　医者に診てもらいましたか？　くすりを飲んでいますか？
６．　夜更かしましたか？　疲れはとれましたか？
７．　遅くまで飲みましたか？　飲みすぎていませんか？
その他　親が子を思う気持ちで具体的に問いかける

２　健康確認の進め方

（１）健康確認役割演技訓練

研修会の冒頭、ＫＹＴ基礎４Ｒ法の前などに訓練を行います（シナリオ参照)。

（２）研修会での実技の応用

問いかけ内容およびメンバーの応答はアドリブとします。

①　はじめにリーダーはメンバーを整列させ、番号を言わせて「健康観察」を行います。整列で姿勢や動作、番号で表情や目、声のハリなどを瞬時に観察する訓練です。

②　その後メンバーの１人を対象に「健康問いかけ」を行います。

健康確認役割演技訓練シナリオ

チーム編成　（６人　小さな円陣を組む）

リーダー　１名

メンバー　５名

（セリフ中の（　）さんは固有名詞で呼びます）

	役割	セ　リ　フ
健 康 観 察	リーダー 各メンバー リーダー 各メンバー	整列、番号。 １、　２、　３、　４、　５ ６、おはようございます。 おはようございます。
健 康 問 い か け	リーダー （１） リーダー （１）	（１）さん、目が赤いですが、ゆうべは、よく眠れなかったのですか？ テレビを見ていて１２時過ぎに寝たので、ちょっと寝不足気味です。 作業はしっかりやれますか？ 差し支えありません。

健康問いかけ	リーダー	（２）さん、少し顔色が悪いようですけど、どこかだるいのですか？
	（２）	いいえ、大丈夫です。でも子供が熱を出して気がかりなものですから。
	リーダー	それは心配ですね。今日は仕事が終わったら直ぐに帰ってあげて下さい。
	（２）	はい。
	リーダー	（３）さん、先日　ギックリ腰になったそうだけど、今日の具合はどうですか？
	（３）	だいぶ良くなりました。もう作業には差し支えありません。
	リーダー	それは良かった。でも油断しないで、荷物を持ち上げる時は、しっかり腰を下ろすようにして下さい。
	（３）	はい、分かりました。
	リーダー	（４）さん、ゆうべ同期の送別会があったそうですが。
	（４）	少し飲みすぎて、ちょっと頭痛がします。
	リーダー	それはつらいね。もし調子がひどくなるようなことがあれば、いつでも言って下さい。
	（４）	はい、分かりました。
	リーダー	（５）さん、いつもより声がかすれているようですが風邪でもひいたのですか？
	（５）	昨日、野球の応援で声を出しすぎて、ノドを痛めてしまったんです。
	リーダー	そうですか。今日は大声を出すのをひかえて、早く治して下さい。
	（５）	はい。
タッチ＆コール	リーダー	それでは、いつもの配置でお願いします。 タッチ・アンド・コールで業務にとりかかりましょう。私がリードします。手重ね型でいきます。構えて！
	全　員	ヨシ！
	リーダー	一人ひとりカケガエノナイひと　ヨシ！
	全　員	一人ひとりカケガエノナイひと　ヨシ！
	リーダー	ゼロ災でいこう　ヨシ！
	全　員	ゼロ災でいこう　ヨシ！

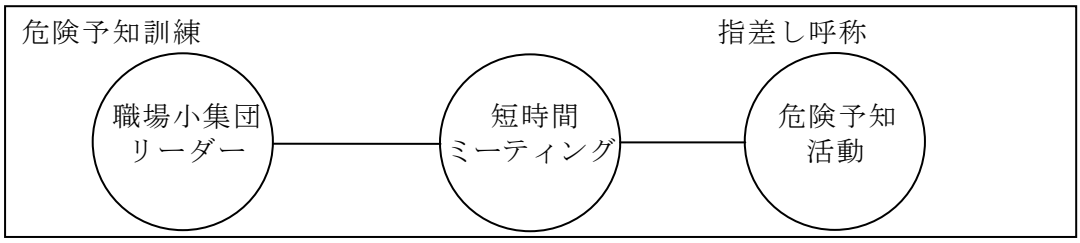
４　ＫＹＴの導入

１　ＫＹＴの概要

職場の第一線の安全衛生を、日々、時々刻々に確保していくためには、リーダーを中心に行う短時間ミーティングで、職場や業務に潜む危険要因を、発見、把握、解決する「危険予知のチーム行動」を充実させるとともに、一人ひとりの職員の危険に対する感受性や問題解決能力を高める必要があります。

ＫＹＴは、この課題にこたえるため「職場」で行う「短時間」の、「チームワーク」による「問題（危険）解決訓練」つまりＫＹ活動のための訓練として実施するものです。

また、現場で実際に業務を行うのは、一人ひとりの職員なので、行動の要所要所で、その時、その場に即して、指差し呼称で安全を確認することが必要なため、指差し呼称を組み込んだ訓練となっています。



ＫＹＴの要旨は、

○現場や業務の状況を描いたイラストシートを使って、あるいは現場で現物で業務を実施したり、実施させたりしながら

○現場の業務の状況の中にひそむ、“危険要因”（労働災害や事故の原因となる可能性のある、不安全行動や不安全状態）とそれが引き起こす“現象”（事故の型）を

○職場小集団で話し合い、考え合い、分かり合って（あるいは１人で自問自答して）

○危険のポイントや行動目標を決定し、それを指差し唱和したり、指差し呼称で確認したりして

○行動する前に安全衛生を先取りする。

この訓練をＫＹＴといい、日常的に短時間で、早く・正しく行うことが求められます。

２　ＫＹＴの目指すもの

ＫＹＴとは、危険を危険として気づく感受性をミーティングで鋭くし、危険情報を共有し合い、それをミーティングで解決していく中で問題解決能力を向上し、行動の要所要所で指差し呼称を行うことにより集中力を高め、チームワークで実践への意欲を強めるための訓練手法で、次の効果が期待できます。

（１）「知っている」のに「できる」のに

知識もある。技能もある。当然対策も知っているし、できるはずです。それなのにやらなかった。そのために事故が起こっています。

知っているのに、出来るのになぜやらなかったか。これについて３つケースがあります。

①　感受性が鈍く、危険を危険と気づかず、やらなかった。－感受性を鋭くする
②　ついウッカリして、ボンヤリしていて、やらなかった。－集中力を高める
③　はじめから「ヤル気がない」ので、やらなかった。－実践への意欲を高める

（２）感受性を鋭くする

ＫＹＴは､危ないことを危ないと感じる感覚､危険に対する感受性を鋭くします。危険な状況があるとき､「危ないな」､「なんとなく変だな」､「どうも気になる」などと虫が知らせる、ピンと気づく。この感覚が感受性です。

毎日毎日、要所要所で、さっと短時間のＫＹＴを繰返し行うことによって危険を危険と感じる感受性を鋭く保つことができます。

（３）集中力を高める

ＫＹＴは、限られた時間内で、イラストシートなどを使って職場や作業の危険を見つけ出したり、対策を考え出す必要があることから、その過程で集中力を養うことができます。

さらに、ＫＹＴは、行動の要所要所で、指差し呼称や指差し唱和を行うことによって集中力を高めてウッカリ、ボンヤリ、不注意を防ぎます。

行動の要所要所とは､「危険のポイント」です。危険のポイントをしぼり込んで、そこで鋭く切り込む指差し呼称をして集中力を高め、人間の行動特性（錯覚、不注意、近道反応、省略行為）に基づくヒューマンエラー事故を防ごうというのがＫＹＴの目指すものです。

（４）問題解決能力を向上させる

ＫＹＴは、気づいた危険に対し具体的で実行可能な対策を出し合い、さらに重点実施項目の絞り込みを行う中で、危険に対する問題解決能力を向上させます。

（５）実践への意欲を強める

ＫＹＴは、危険に対するホンネの話し合いのなかで、ヤロウ・ヤルゾの実践活動への意気込みを強めます。

ＫＹＴも指差し呼称も「やらされる」活動でなく、自ら進んで「ヤロウ・ヤルゾ」で実践されて、はじめて有効なものになります。ごく短時間の本音の話し合いで、実践につながる強い合意を生むのが､4ラウンド法をベースにしたＫＹＴなのです。

（６）職場風土づくり

ＫＹＴは、最終的には「先取り的」､「参加的」な明るい生き生きとした職場風土づくりを目指すＫＹ活動の基本訓練です。

５　ＫＹＴ基礎４ラウンド法

ＫＹＴ基礎４ラウンド法のねらい
　チームでイラストシートや現場・現物で職場や業務にひそむ危険を発見・把握・解決していくＫＹＴの基本手法で、繰り返し訓練することにより、一人ひとりの危険感受性を鋭くし、集中力を高め、問題解決能力を向上させ、実践への意欲を高めることをねらいとした訓練手法です。

ＫＹＴ基礎４ラウンド法（以降ＫＹＴ基礎４Ｒ法と記載）は、ＫＹＴにおけるその他の手法が、概ねこのバリエーションであるという意味で、ＫＹＴの基本をなす手法です。

イラストシートに描かれた、職場や業務の状況の中に「どんな危険がひそんでいるか」を、メンバーのホンネの話し合いで問題解決の４つの段階（ラウンド）を経て段階的に進めていきます。このプロセスを、リーダー、書記、レポート係などの役割を各メンバーが分担して体験学習をします。

表 3-5-1　ＫＹＴ基礎４Ｒ法の概要

ラウンド	危険予知訓練のポイント	ラウンドの内容（要旨）
１Ｒ	どんな危険がひそんでいるか	イラストシートの状況の中にひそむ危険を発見し、危険要因とその要因が引き起こす現象を想定して出し合い、共有し合います
２Ｒ	これが危険のポイントだ	発見した危険のうち、これが重要だと思われる危険を把握して○印、さらにみんなの合意でしぼりこみ、◎印とアンダーラインをつけ“危険のポイント”とし、指差し唱和で確認します
３Ｒ	あなたならどうする	◎印をつけた危険のポイントを解決するにはどうしたらよいかを考え、具体的な対策案を出し合います
４Ｒ	私たちはこうする	対策の中からみんなの合意でしぼりこみ、※印とアンダーラインをつけ、“重点実施項目”とします。 それを実践するための“チーム行動目標”を設定し指差し唱和で確認します

ＫＹＴ基礎４Ｒ法は、まずイラストシート、模造紙、黒赤マジックインキ（黒板とチョークでもよい）を用意し、チームの役割分担を決め、明るく何でもホンネで話し合いのできるリラックスした雰囲気ではじめます。

１　準備・役割

項　目	内　　容	備　考　欄
資機材	イラストシート、模造紙、黒赤マジックインキ	黒板、チョークでもよい
チーム編成	１チーム　５～６人	７人超は分割
役割分担	リーダー（司会）、書記を決める。必要に応じて、レポート係や他の役割分担を決める。	役割は輪番制とする 役割は兼ねても良い
リーダー	討議の司会・進行・時間管理・全員発言を促す	
書　記	メンバーの発言を模造紙に記入	
レポート係	書記が模造紙に書いたものをレポート用紙にそのまま転記する	加筆・訂正もそのまま転記する
発表者	討議終了後、模造紙を見ながら内容を発表する	
コメント係	相手チームの発表内容について感想を述べる	
役割演技	レポート係以外、全員立ったまま実技を行う	短時間、集中して行う
時間配分と項目数	各ラウンドに何分かけるか、何項目程度出すかなど予め決め、メンバーに知らせておく	
ミーティングの進め方（ホンネの話し合い）	・ 気楽な雰囲気でやろう ・ 全員どんどん発言しよう ・ 議論はしない、させない ・ 実戦向きに、全員立って行う	

イラストシートの活用について

ＫＹＴは、まず話し合いのテーマが必要です。目に見えるものとしてイラストシートや現場の設備等があればテーマが明確になり、チームメンバー全員の目がイラストや設備に集中し、話合いのベースが一致できます。

自施設の関連業務であれば簡単なイラストで、どんな内容か分かりますのでドンドン自前のイラストシートでＫＹＴを行いましょう。写真でも良いのですが、写っている作業場所の整理整頓が悪かったり、写し出されている場面そのものが広いとメンバーの注意があちらこちらへ飛び、話の中身が広がり過ぎたり、間違い探しになりがちです。ＫＹＴに使う写真を選ぶ際には、注意が必要です。

イラストシート例

どんな危険がひそんでいるか

業務名：窓ふき



状　況

あなたは、脚立を使って、窓ふきをしている。

第１ラウンド　７つのポイント

１．イラストの中の作業者になりきる
２．危険を“危険要因”と“現象（事故の型）”でとらえる
３．“現象”は“事故の型”で言い切る
４．“危険要因”はできるだけ
　　“不安全な行動”と“不安全な状態”でとらえる
５．“危険要因”を掘り下げていく
６．“危険要因”は具体的に表現する
７．“危険要因”は肯定的に表現する

２　ＫＹＴ基礎４Ｒ法の具体的な進め方

＜導入＞気持ちを引き締め、話し合いに入る雰囲気作りをする（役割になりきって）

手　　順	要　領　①	要領　②
①　整理 ・　番号 ②　挨拶 ③　健康確認	・全員起立　円陣　　＝[健康観察] ・リーダーの隣から順に「１」「２」「３」 ・・・最後にリーダー ・「おはようございます」「こんにちは」など一言 ・「固有名詞」で「具体的に」に問いかけて健康状態を確認する	リーダーは、メンバー１人ひとりの姿勢・動作・顔・表情・目・会話を観察 訓練では１名を対象に行う

＜第１ラウンド＞現状把握：どんな危険がひそんでいるかの話し合いを行う

①みんなの話し合いで、イラストシートの状況にひそむ危険を発見し、“危険要因“とその要因が引き起こす “現象（事故の型）”を想定して出し合う（５項目以上）

②出された危険要因が具体的かを見直す

手　　順	要　　領　①	要　　領　②
１．リーダーは “どんな危険がひそんでいるか”をメンバーに問いかける	①イラストシートをメンバーに見せる ②「状況」を読み上げ ③全員が発言するように心がける	
２．メンバーは気付いた危険を発言する 危険要因　＋　現象 (“状態”と“行動・動作”)+(事故の型) --- ～なので ～して　～になる ～なので～して　～する	・イラストシートの担当者になりきって ・ドンドン発言することが大事 ・危険要因は、できるだけ具体的に危険の“状態”と“行動（動作)”を明らかにする	・「なので」「して」「する」という言葉づかいには、特にこだわる必要はない ・表現が難しければジェスチャーを交えてもよい ・この段階では、できる範囲でよい（考え込んで討議が止まらないように）
３．書記は発言を模造紙に記入する	・手早く横書きする	・発言を要約しないでドロクサイ表現のままでよい ・漢字にこだわらず“ひらがな”“カタカナ”でよい
４．あらかじめ決めた目標項目数（７項目）以上、できるだけ多くの危険を発見するように	・リーダーは目標項目数出たら他にないかを問いかけ確認する ・メンバーは新たに気付いた危険があれば発言する	
５．各項目を、話し合って見直し必要があれば加筆・訂正する	・発言者が気付いた危険をみんなが“アリアリと目に浮かぶように”、次の７つの項目を参考にして具体化する ①イラストシートの作業者の身になっているか ②危険要因と現象の組合せで表現されているか ③現象は「事故の型」で言い切っているか ④危険要因は状態と行動（動作）で表現されているか ⑤危険要因が掘り下げられているか ⑥危険要因が具体的に表現されているか ⑦危険要因が肯定的に表現されているか	・見直しの結果、新たな危険に気付いたら発言を追加してもよい
６．リーダーは、第１Ｒの終了を告げる	・予定時間を考慮して ・ラウンドの区切りをつける	

模造紙とレポートの記入例（導入、１Ｒ）

シートNo２　　３チーム

１Ｒ

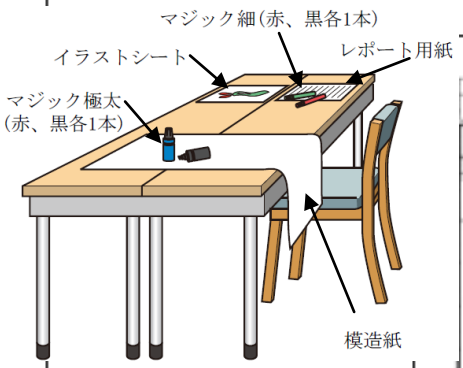
1. 力を入れて汚れをもみ洗いしたので、はねた水が目に入る。

2. 脚立から離れた窓を拭こうと身を乗り出したので脚立がぐらついてよろけて落ちる。

3. 脚立から飛び降りて、着地した時よろけて足をひねる。
地面まであと２段なので

4. 昇りながら窓に近づこうと窓側に足を寄せたので濡れた踏みさんですべり転落する。

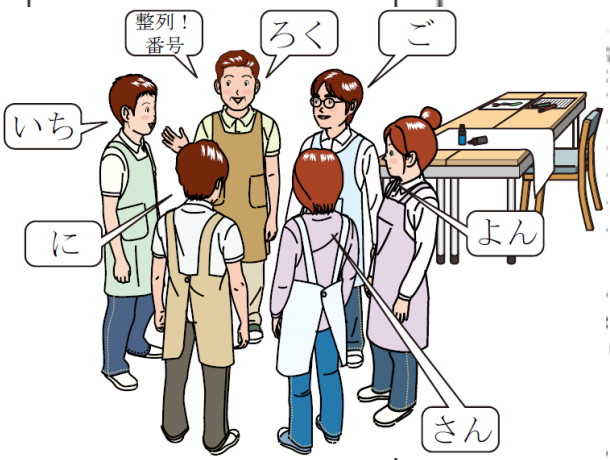
5. 脚立から降りて、拭き具合を見ながら後ずさりしたので脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。

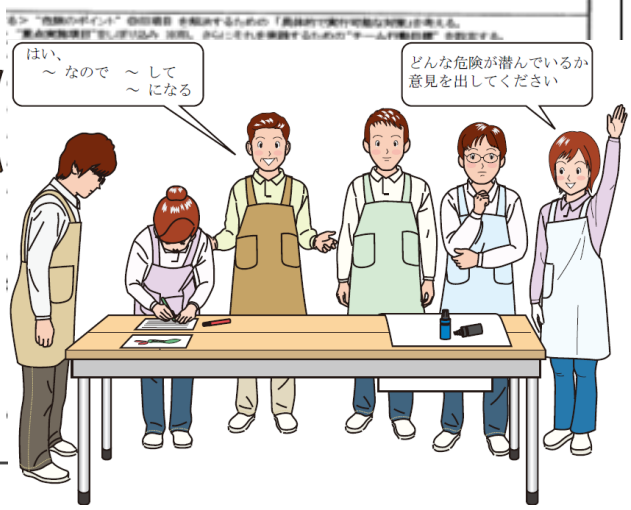


危険予知訓練レポート　No.2　21.7.7　第３会議室

３一		山本	鈴鹿	田中		斎藤　木村

1. 力を入れて汚れをもみ洗いしたので、はねた水が目に入
2. ■立から離れた窓を拭こうと身を乗り出したので■立がぐらついて、よろけて落ちる。
3. ■立から飛び降りて、着地した時よろけて足をひねる。地面まであと２段なので
4. 昇りながら窓に近づこうと窓側に足を寄せたので濡れた踏みさんですべり転落する。
5. ■立から降りて拭き具合を見ながら後ずさりしたので■立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。





＜第２ラウンド＞本質追究：これが危険のポイントだ

《発見した危険のうちから、質の高い重要だと思われる危険を合意し、『危険のポイント』とする》

①発見した危険のうち、これが重要だと思われる危険に○印を付ける

②さらに、しぼり込んで◎印とアンダーラインを付け、『危険のポイント』とする

③『危険のポイント』を指差し唱和で確認する

手　　順	要領　①	要領　②
１．リーダーは、第１ラウンドで出された危険のうちチームにとって「問題のある重要な危険は何か」を問いかける	第１ラウンドで出された項目をみんなでながめて。	１項目ずつ読みあげてもよい。
２．メンバーは、重要と思う項目の「№」を発言する	①「これは問題だなぁ」「これはウッカリできないぞ」と思う項目の「№」をドンドン発言する ②書記は「赤」で「№」に○印をつける	・一人ひとりの意見を尊重し、特に全員の合意は必要ない ・○印は、何個になってもよい
３．みんなの合意で『「危険のポイント」にしぼり込む ＜１～２項目＞」	①リーダーは、メンバーにはかって全員の合意で ・『危険のポイント』は、多数決ではなく ・「ソウダコレダ」「ヤッパリコレダ」という感じで ・全員の合意でみんなが納得できる特に関心の高いものを見出す ②書記は「赤」で◎印とアンダーラインを付ける	・対策に緊急を要するもの…現象（事故）の可能性・頻度 ・重大事故となる可能性のあるもの…事故が起こった時の結果の重大性 ◎印の表現をもう一度、具体的か見直す
４．『危険のポイント』を指差し唱和で確認して、第２ラウンドをしめくくり、次のラウンドに入る	リーダーのリードで全員で指差し唱和する。 リーダー「危険のポイント！～なので～して～になる　ヨシ！」 全員「～なので～して～になるヨシ！」	・姿勢を正して、目と指先で文字をおいながら ・「この危険を何としても解決するぞ！」という決意をこめて確認する。

模造紙とレポートの記入例（２Ｒ）

シートNo 2　　3チーム

1R 2R

1. 力を入れて汚れをもみ洗いしたので、はねた水が目に入る。

2. 脚立から離れた窓を拭こうと身を乗り出したので脚立がぐらついてよろけて落ちる。

3. 脚立から飛び降りて、着地した時よろけて足をひねる。
地面まであと2段なので

4. 昇りながら窓に近づこうと窓側に足を寄せたので濡れた踏みさんですべり転落する。

5. 脚立から降りて、拭き具合を見ながら後ずさりしたので脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。

危険予知訓練レポート　シート No. 2　日時 21.7.7　ところ 第3会議室

チーム・サブチーム	チーム・ニックネーム	リーダー	書記	レポート者	発表者	コメント係	その他のメンバー
3一		山本	鈴浦	田中			高田　木村

第1ラウンド <どんな危険がひそんでいるか> 潜在危険を発見・予知し、"危険要因"と それによって引き起こされる"現象"を想定する。
第2ラウンド <これが危険のポイントだ> 全員で危険のうち、「重要危険」に○印、さらにしぼり込んで、特に重要と思われる"危険のポイント"に ◎印。
"危険要因"と"現象・事故の型"を想定して 一言のでーして一になる」というように書く。

1. 力を入れて汚れをもみ洗いしたので、はねた水が目に入る。

2. 脚立から離れた窓を拭こうと身を乗り出したので脚立がぐらついて、よろけて落ちる。

3. 脚立から飛び降りて、着地した時よろけて足をひねる。
地面まであと2段なので

4. 昇りながら窓に近づこうと窓側に足を寄せたので濡れた踏みさんですべり転落する。

5. 脚立から降りて拭き具合を見ながら後ずさりしたので脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。



＜第３ラウンド＞対策樹立：あなたならどうする

《『危険のポイント』に対して、話し合いで対策を出し合う》

『危険のポイント』を解決するにはどうしたらよいかを考え、具体的な対策を立てる

手　　順	要領　①	要領　②
１.リーダーは『危険のポイント』について対策をメンバーに問いかける	①それを予防したり、防止したりするのに「あなたならどうする」と ②全員が発言するように心がける	
２．メンバーは、**“具体的で実行可能な対策”**を「～する」と発言する	①イラストの作業者の立場になってドンドン発言することが大事 ・対策は「～しない」など否定的・禁止的ではなく、 ・「～する」という実践的な前向きの具体的な“行動内容”で ②書記は模造紙に記入する	・自分なら「こういう状況ではこうする」「こうすることが必要だ」というもの ・一人ひとりの意見を尊重し特に相談は必要ない ・“行動内容”とは「業務のやり方」だけでなく「よい状態をつくる行動」も含む
３.あらかじめ決めた目標項目数を出し合う **＜各３項目程度＞**	・リーダーは目標項目数出たら他にないかを問いかけ、確認する ・メンバーは新たに気付いた対策があれば発言する	
４．リーダーは、第３ラウンドの終了をメンバーに告げ、次のラウンドに入る	・予定時間を考慮して ・きりのよいところで	ラウンドの区切りをつける。

模造紙とレポートの記入例（３Ｒ）

危険予知訓練レポート　シートNo. 2　とき 21. 7: 7　ところ 第３会議室　020315

チームNo.ーサブチーム	チーム・ニックネーム	リーダー	書記	レポート係	発表者	コメント係	その他のメンバー
3ー		山本	佐藤	田中			渡辺　木村

第１ラウンド ＜どんな危険がひそんでいるか＞ 潜在危険を発見・予知し、"危険要因"と それによって引き起こされる"現象"を想定する。
第２ラウンド ＜これが危険のポイントだ＞ 発見した危険のうち、「重要危険」に ○印。さらにしぼり込んで、特に重要と思われる"危険のポイント"に ◎印。
"危険要因" と "現象(事故の型)" を想定して【～なので～して～になる】というように書く。

１．力を入れて汚れをもみ洗いしたので、はねた水が目に入る。

②．脚立から離れた窓を拭こうと身を乗り出したので脚立がぐらついて、よろけて落ちる。

③．脚立から飛び降りて、着地した時よろけて足をひねる。地面まであと２段なので

４．昇りながら窓に近づこうと窓側に足を寄せたので濡れた踏みさんですべり転落する。

⑤．脚立から降りて拭き具合を見ながら後ずさりしたので脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。

第３ラウンド＜あなたならどうする＞ "危険のポイント" ◎印項目 を解決するための「具体的で実行可能な対策」を考える。
第４ラウンド＜私達はこうする＞ "重点実施項目"をしぼり込み ※印。 さらにそれを実践するための"チーム行動目標" を設定する。

◎印No.	※印	具体策	◎印No.	※印	具体策
2		1 脚立を正面に置く。			1
		2 脚立の反対側に昇る。			2
		3 脚立をこまめに動かす。			3
		4			4
		5			5
チーム行動目標 ～する時は ～を～して ～しよう ヨシ！			チーム行動目標 ～する時は ～を～して ～しよう ヨシ！		
指差し呼称項目			指差し呼称項目		

上司のアドバイスコメント

シートNo 2

1R 2R

１．．力を入れて

②．脚立から離
ぐらついて

③　脚立から飛
地面まであと

４．昇りながら

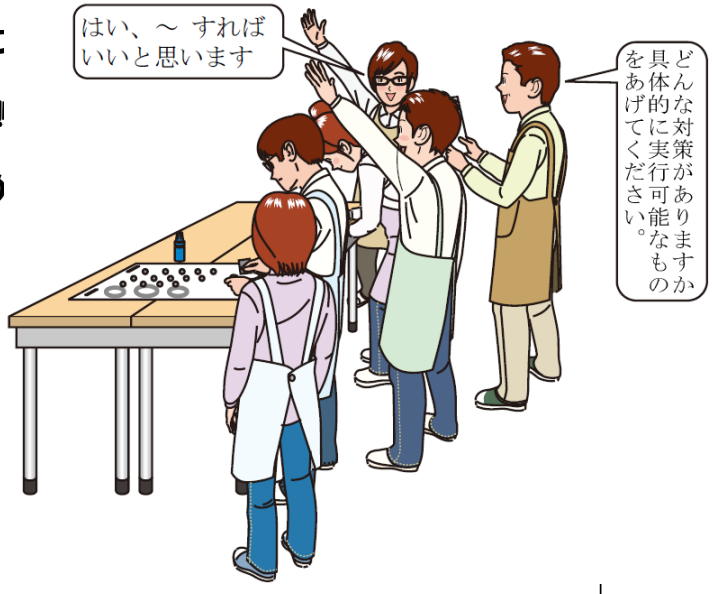
⑤脚立から降りて、拭き具合を見ながら後ずさりしたので
脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。

3R

２－１．脚立を正面に

２－２．脚立の反対側

２－３．脚立をこまめ



＜第４ラウンド＞目標設定：私達はこうする

《対策のうちから質の高い項目を、みんなでの合意で絞り込む》

①対策の中からしぼりこんで※印とアンダーラインをつけ『重点実施項目』とする

②『重点実施項目』を実践するための『チーム行動目標』を設定する

③『チーム行動目標』を指差し唱和して確認する

手　　順	要　　領　①	要　　領　②
１．リーダーは、第３ラウンドで出た対策のうち､チームとして「必ず実施しよう」という対策は何かを問いかける	第３ラウンドで出された項目をみんなでながめて。	
２．みんなの合意で『重点実施項目』にしぼり込む 《各１項目》	①　リーダーは、メンバーにはかって『危険のポイント』を解決するのに必要な“当面の行動内容”を全員の合意で決める ②書記は､「赤」で※印とアンダーラインを付ける	･『重点実施項目』は、タテマエでなくホンネで ･自分達は必ずこれを実践しようということ
３．『重点実施項目』をズバリとらえた､具体的な『チーム行動目標』を設定する ＜各１項目＞	①リーダーは､メンバーにはかって全員の合意で『チーム行動目標』決める ･『重点実施目標』をさらに具体化して“アリアリと目に浮かぶ”ように ②書記は、模造紙に記入する	『チーム行動目標』は、「～する時は」または「～の時は」とその場面を特定する ･「～しないようにしよう」と言った否定的･禁止的な表現でなく ･「～を～して～しよう」というように前向きで具体的な行動内容でとらえる ･各『重点実施項目』を、１つの『チーム行動目標』にまとめる場合もある
４．『チーム行動目標』を指差し唱和で確認して第４ラウンドをしめくくる	リーダーのリードで指差し唱和する。 リーダー「チーム行動目標！～する時は、～をして～しよう　ヨシ！」 全員「～する時は～を～して～しよう　ヨシ　！」	･姿勢を正して目と指先で文字を追いながら ･「この行動目標を何としても実践するぞ！」という決意表明

模造紙とレポートの記入例（４Ｒ）

危険予知訓練レポート　シートNo 2　21.7.7　第３金属室

チームNo・サブリーダー	チーム・ニックネーム	リーダー	書記	レポート係	発表者	コメント係	その他のメンバー
3		山本	新道	田中			清原　木村

第１ラウンド　<どんな危険がひそんでいるか>　現在危険と判断…
第２ラウンド　<これが危険のポイントだ>　危険と危険の中、「重要危険度」に○印、さらに絞り込んで、特に重要と思われる"危険のポイント"に◎印。
"危険要因"と"現象(事故の型)"を想定して「～なので～して～になる」というように書く。

1．力を入れて汚れをもみ洗いしたので、はねた水が目に入
②．脚立から離れた窓を拭こうと身を乗り出したので脚立がぐらついて、よろけて落ちる。
③．脚立から飛び降りて、着地した時よろけて足をひねる。地面まであと２段なので
4．昇りながら窓に近づこうと窓側に足を寄せたので濡れた踏みさんですべり転落する。
⑤．脚立から降りて拭き具合を見ながら後ずさりしたので脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。

第３ラウンド　<あなたならどうする>　"危険のポイント"の対策…
第４ラウンド　<私達はこうする>　"重点実施事項"を…

対策No.	対応	具体策	対策No.	対応	具体策
2		1 脚立を正面に置く。			1
		2 脚立の反対側に昇る。			2
	※	3 脚立をこまめに動かす。			3
		4			4
		5			5
チーム行動目標 一点指差し 全員 しよう！		脚立を使って窓ふきをする時は 脚立をこまめに動かして 行なおうヨシ！	チーム行動目標 一点指差し 全員 しよう！		

上司のコメント・サジェスチョン

シートNo２

1R　2R

1．力を入れて汚れ

②．脚立から離れた窓
ぐらついてよろけ

③．脚立から飛び降り
地面まであと２段な

4．昇りながら窓に近

⑤．脚立から降りて、拭き具合を見ながら後ずさりしたので
脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。

3R　4R

２－１．脚立を正面に置く

２－２．脚立の反対側に昇る

※　２－３．脚立をこまめに動かす。

チーム行動目標

脚立を使って窓ふきをする時は、
脚立を　こまめに動かして行なおう　ヨシ！



＜確認＞ＫＹＴをしめくくる

《『指差し呼称項目』を設定し、タッチ・アンド・コールでＫＹＴをしめくくる》

①『指差し呼称項目』を設定し、指差し唱和して確認する

②タッチ・アンド・コールをしてＫＹＴをしめくくる

手　　順	要　　領　　①	要　　領　　②
１.『指差し呼称項目』を設定する ＜各１項目＞	①リーダーは、メンバーにはかって全員の合意で『指差し呼称項目』を決める 『重点実施項目』に関連して実際に現場で業務中に“指を差し”“呼称して”確認すべきポイントをとらえて、鋭く切り込む具体的な項目を設定する ②書記は、模造紙に記入する	・『危険のポイント』に対して、それが“ないこと”や“解消されたこと”その「対象」と「状態」を確認する内容で ＜例＞「台車　ヨシ！」よりも →「台車位置　ヨシ！」 更に→「台車位置横　ヨシ！」
２.『指差し呼称項目』を指差し唱和して確認する	リーダーのリードで３回指差唱和する リーダー「指差し呼称項目！ ○○　ヨシ　！」 →全員「○○　ヨシ！」 （３回）	・姿勢を正して目と指先で文字を追いながら ・３回指差し唱和して、この項目を潜在意識にタタキ込んで現場での実践につなげる ・リーダーの掛け声は、 「指差し呼称！ ○○ヨシ！」と省略可
３．タッチ・アンド・コールを行ってＫＹＴをしめくくる	リーダーのリードでタッチ･アンド・コールする リーダー「ゼロ災でいこう ヨシ　！」 →全員「ゼロ災でいこう ヨシ　！」	現場での実践を、決意を込めて誓い合う。

模造紙とレポートの記入例（確認）

危険予知訓練レポート　シートNo 2　21_7_7　第３会議室

チームNo.・サブNo.	チーム・ニックネーム	リーダー	書記	レポート者	発表者	コメント係	その他のメンバー
3		山本	長瀬	田中			清沢　木村

1．力を入れて汚れをもみ洗いしたので、はねた水が目に入る。

②　脚立から離れた窓を拭こうと身を乗り出したので脚立がぐらついて、よろけて落ちる。

③　脚立から飛び降りて、着地した時よろけて足をひねる。地面まであと２段なので

4．身りながら窓に近づこうと窓側に足を寄せたので濡れた踏みさんですべり転落する。

⑤　脚立から降りて拭き具合を見ながら後ずさりしたので脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。

2		1	脚立を正面に置く。		
		2	脚立の反対側に昇る。		
	※	3	脚立をこまめに動かす。		
		4			
		5			

脚立を使って窓ふきをする時は
脚立をこまめに動かして
行なおうヨシ！

脚立位置　正面　ヨシ！

シートNo 2

1R　2R

1．力を入れて汚れ

② 脚立から離れた窓
ぐらついてよろけ

③ 脚立から飛び降り
地面まであと2段な

4．昇りながら窓に近

⑤ 脚立から降りて、拭き具合を見ながら後ずさりしたので
脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ。

3R　4R

2－1．脚立を正面に置く

2－2．脚立の反対側に昇る

※ 2－3．脚立をこまめに動かす。

チーム行動目標

脚立を使って窓ふきをする時は、
脚立を　こまめに動かして行なおう　ヨシ！

指

脚立位置　正面　ヨシ！





KYT基礎4R法　手法のまとめ

準備	１チーム５～６人	役割分担 （リーダー・書記・レポート係・発表者・コメント係） 模造紙・レポート用紙　配布
導入	[全員起立]　リーダー＝整列・番号、挨拶、健康確認	
１Ｒ	**現状把握** どんな危険が ひそんでいるか	リーダー＝状況読み上げ “危険要因”と引き起こされる“現象(事故の型)” 「～なので～になる」「～して～になる」 「～なので～して～になる」　**５項目以上**
２Ｒ	**本質追究** これが危険の ポイントだ	(1)　重要と思われる項目→○印＜合意不要＞ (2)　○印項目→しぼり込み　**１～２項目**＜全員の合意＞ (3)　→◎印・アンダーライン＝**危険のポイント** (4)　危険のポイント→指差し唱和 リーダー「危険のポイント ～なので～して～になる　ヨシ！」 →全　員「～なので～して～になる　ヨシ！」
３Ｒ	**対策樹立** あなたなら どうする	危険のポイントに対する具体的で実行可能な対策＜合意不要＞ →　**各３項目程度**
４Ｒ	**目標設定** 私達はこうする	(1)　しぼり込み　**各１項目**＜全員の合意＞ →　※印・アンダーライン＝**重点実施項目** (2)　**チーム行動目標**設定　**各１項目**＜全員の合意＞ (3)　チーム行動目標→指差し唱和 リーダー「チーム行動目標 ～する時は～を～して～しよう　ヨシ！」 →全　員「～する時は～を～して～しよう　ヨシ！」
確認	(1)　**指差し呼称項目**設定　**各１項目**＜全員の合意＞ 危険のポイントに対して安全を確認する項目、焦点を絞って視る“対象”と“確認する内容”をズバリとらえる。 (2) 指差し唱和　　リーダー「指差し呼称項目　○○　ヨシ！」 →全　員「○○　ヨシ！」(３回唱和) (3)　タッチ・アンド・コール リーダー「ゼロ災でいこう　ヨシ！」 →全　員「ゼロ災でいこう　ヨシ！」	

ＫＹＴ基礎４Ｒ法の進め方（シナリオ）

手法のねらい

危険予知訓練は、危険に対する感受性を鋭くするためのもので「Ｋ（キケン）Ｙ（ヨチ）Ｔ（トレーニング）」ＫＹＴと略称されています。この４ラウンド法がすべてのＫＹＴ活用技術のベースになるものです。

このＫＹＴ基礎４Ｒ法を正しく、早く理解する方法として、まずはこのシナリオを読み、手法の全体像（進め方）をつかんでください。

シナリオ読み合わせのポイント

- このシナリオの読み合わせからはじめて、２～３回と繰り返し練習するごとに、この手法が身につきます
- 手法の流れが判ってきたらアドリブの会話を挿入しても良いでしょう
- 大きな動作、大きな声で、本物らしく練習しましょう

ＫＹＴ基礎４Ｒ法 実技のポイント

- レポート係以外は全員立って実技を行います
- 通常5～6人で行います(多い場合は、サブチームを編成します)
- レポートはコピーしてメンバーに配り、内容を再び確認しましょう。また上司のコメントを必ず記入し、強い関心と激励により日々のＫＹＴを活力あるものにしましょう
- サブチームに分かれて行ったときは、相互に発表しコメントし合います
- 15 分以内で「みんなで、早く、正しく」行えるよう反復訓練しましょう

役割	セリフ	実技のポイント
	タッチアンドコール	全員で小さな円陣をつくる。
リーダー	ＫＹＴ基礎４Ｒ法　開始　ヨシ　！	
メンバー	ＫＹＴ基礎４Ｒ法　開始　ヨシ　！	
	導　入	健康観察（姿勢・動作・顔・表情・目・会話）
リーダー	整列・・・番号	
メンバー	１、２、３、４、５	
リーダー	６・・・おはようございます。	
メンバー	おはようございます。	
リーダー	（３）さん、ちょっと鼻声みたいだけど、風邪でもひいたの？	
メンバー	家中が風邪をひいてしまって、私もついうつってしまいました。	
リーダー	それは気の毒に、風邪は引き始めが肝心だから食事と睡眠には十分気をつけて下さい。では、ＫＹＴ基礎４Ｒ法を始めましょう。今日は、誰にでも判る「窓ふき」がテーマです。イラストシートを配布します。これでＫＹＴを行います。書記は（２）さん、レポート係は（４）さんにお願いします。	サブチームで実技を行う時は、発表者、コメント係を決める。
	第１Ｒ　現状把握：どんな危険が潜んでいるか	
リーダー	それでは第１ラウンドを行います。 作業名は「窓ふき」、状況は、あなたは、脚立を使って窓ふきをしています。 この作業は、脚立を使うので昇り降りが大変ですね、さあ、どんな危険が潜んでいるかドンドン出して下さい。	発言者は「ハイ」と挙手して発言する。
（１）さん	ハイ、力を入れて雑巾をもみ洗いしたので、はねた水が目に入る。	みんなで「ワイワィドンドン、グングン」リラックスして話し合う。
リーダー	そうですね、それはよくありそうですね。	
（３）さん	ハイ、脚立から離れた窓を拭こうと身を乗り出したので、脚立がぐらついてよろけて落ちる。	危険要因によって引き起こされる現象は事故の型で表す。
リーダー	なるほど、それは危ないですね。	
（２）さん	ハイ、脚立から飛び降りて、着地した時よろけて足をひねる。	
（４）さん	ハイ、昇りながら窓に近づこうと窓側に足を乗せたので濡れた踏みさん足が滑り転落する。	
リーダー	（５）さん、何か危険はないですか。	

役割	セリフ	実技のポイント
（５)さん	ハイ！脚立から降りて拭き具合を見ながら、後ずさりしたので後ろのバケツに足を引っ掛け転ぶ。	リーダーは５項目くらい出たところで、他に危険はないかを問いかける。
リーダー	全員１件ずつ出ました。その他ありませんか。	
メンバー	ありません。	
リーダー	１Ｒの中で抽象的な表現なものはありませんか、見直しをしましょう。	書記は、メンバーの発言を番号を付けながら模造紙に横書きする。
（４)さん	（２）さんの言われた「脚立から飛び降りですが、なぜ飛び降りたのか理由があると判りやすいですね。例えば、地面まであと２段なので、と最初に入れると理解がしやすくなります。	できるだけ「～なので～して～になる」と発言し、危険を具体的に捉える。
リーダー	そうですね、（２）さん〔書記）３番の冒頭に「地面まであと２段なので」を追加して下さい。後はいいですね。	１Ｒが出揃ったら必ず「具体的な表現か」見直しを行う。
メンバー	いいです。	
	第２Ｒ　本質追求：これが危険のポイントだ	第２Ｒは、「これが危険のポイントだ」をメンバーで合意して決める。
リーダー	それでは、第２Ｒに入ります。第１Ｒの項目の中で、重要な危険はどれだろう。上がった項目には○印を付けて下さい。	全員の話合いで、重要な危険と思われるものに○を付けていく。○印は幾つあってもよい。
（３)さん	３番の脚立から飛び降りて足をひねるが危険です。	
（１)さん	２番の脚立から離れた窓を拭こうとして、ぐらついて落ちるはかなり危険だと思います。	
（４)さん	５番のバケツで転ぶも問題だね。	付け終わったら、さらに、特に重要な危険を皆の話合いで「ソウダ、コレダ」と絞り込んで、危険のポイントを◎印として押さえる。
リーダー	３項目出ました。最重要項目に絞り込みましょう。	
（５)さん	（２）さんの言った３番の脚立から飛び降りて足をひねるというのが起りそうな危険ですね。	
（２)さん	２番の脚立から落ちるというのは、危ないな。	
（３)さん	やっぱり、２番が一番危険だよ。	
リーダー	２番は確かに危ないな、（１）さんはどうですか。	
（１)さん	私も２番が最も危険だと思います。	
リーダー	それでは、危険のポイントを２番に絞り込みたいと思いますが、よろしいですか？	
メンバー	はい。	
リーダー	では２番に◎印を付けて、アンダーラインを引いて下さい。	
リーダー	それでは、危険のポイントを指差し唱和します。構えて！	
メンバー	ヨシ　！	

役割	セリフ	実技のポイント
リーダー	危険のポイント、脚立から離れた窓を拭こうとして身を乗り出したので脚立がぐらついてよろけて落ちるヨシ！	このヨシ！は確認のヨシ！◎とアンダーラインを引いた危険のポイントを全員でしっかり指差し唱和する。
全員	脚立から離れた窓を拭こうとして身を乗り出したので脚立がぐらついてよろけて落ちる　ヨシ！	
	第３Ｒ　対策樹立：あなたならどうする	第３Ｒは「あなたならどうする」のアイデアをドンドン出し合う対策樹立で、危険のポイントに対して、具体的で実行可能な対策を３項目程度出す。 書記はメンバーの発言を素早く模造紙に書いていく。 ２～３項目出たところで終わる。
リーダー	これより３ラウンドに入ります。危険のポイントに対して、あなたならどうしますか？	
(４)さん	脚立を動かす。	
リーダー	どこに置けばよいですか？	
(４)さん	そうですね、脚立を正面に置けばよいと思います。	
(５)さん	脚立の反対側に昇って拭くというのもあります。	
リーダー	(２)さんはどうですか？	
(２)さん	脚立はその都度こまめに動かす、はどうでしょう。	
リーダー	(４)さんと同じですね。こまめに動かすが分かりやすいですね。３項目出ました。４ラウンドにいってもいいですか？	
メンバー	いいです。	
	第４Ｒ　目標設定：私達はこうする	第４Ｒは「私達はこうする」と合意し、決断して実践につなげる目標設定のラウンド。 メンバーにはかって重点実施項目に絞り込む。
リーダー	それではこれより４ラウンドです。３項目出た対策の中から、重点実施項目を絞り込んで※印を付けましょう。どうですか？	
(３)さん	３番の脚立はこまめに動かす、がいいね。	
(１)さん	うん、そうだね。	
(２)さん	賛成です。	
リーダー	では、重点実施項目は３番に決めたいと思います。いいですね？	
メンバー	いいです。	
リーダー	では、３番に※印とアンダーラインを引いてください。	
	チーム行動目標の設定	重点実施項目が決まったら、全員の話し合いで前向きのチーム行動目標を設定する。
リーダー	それではチーム行動目標を設定します。チーム行動目標は、脚立を使って窓ふきをする時は、脚立をこまめに動かして行おう、ではどうですか？	
メンバー	いいです。	

役割	セリフ	実技のポイント
リーダー	では、チーム行動目標を指差し唱和します、構えて。	チーム行動目標は「必ず実践するぞ」、「100%達成するぞ」というチームの決意表明である。
メンバー	ヨシ！	
リーダー	チーム行動目標、脚立を使って窓ふきをする時は、脚立をこまめに動かして行おう　ヨシ！	
全員	脚立を使って窓ふきをする時は、脚立をこまめに動かして行おう　ヨシ！	
	確　認：指差し呼称項目の設定	
リーダー	次に確認のための指差し呼称項目を決めますが、何にしましょうか？　脚立位置 ヨシ！はどうですか？	指差し呼称項目は、確認すべきポイントを、その対象と状態をとらえて、鋭く切り込む具体的な内容とする。
(5)さん	もっと鋭くして、脚立位置正面 ヨシ！でどうでしょう。	
リーダー	なるほど、脚立の位置がよりハッキリしますね。そうしましょう。	
	それでは指差し呼称項目は「脚立位置正面 ヨシ！」にします。３回唱和します。構えて。	３回唱和するのは、この項目を潜在意識に叩き込んで現場での実践につなげるためである。
メンバー	ヨシ！	
リーダー	指差し呼称項目、脚立位置正面 ヨシ！	
全員	脚立位置正面 ヨシ！（３回繰り返し唱和）	
	タッチ・アンド・コール	
リーダー	それではタッチ・アンド・コールで締めくくりましょう。手重ね型でいきます。構えて。	現場での実践を決意を込めて誓い合う。
メンバー	ヨシ！	
リーダー	ゼロ災でいこう ヨシ！	
全員	ゼロ災でいこう ヨシ！	

３　ＫＹＴ基礎４Ｒ法の進め方のポイント

（１）第１ラウンドの“危険”のとらえ方と表現の仕方

①　イラストシートの中の作業者になりきろう

第１ラウンドの現状把握では、イラストシートの中の作業者の身になりきって、自分が作業しているつもりでシートを見ます。

②　危険を“危険要因”と“現象”の組合せで表現しよう

	「～なので」			
[危険要因]	「～して」	＋	[現象]	「～になる」
	「～なので～して」			「～する」

③　“現象”は“事故の型”で言い切ろう

この作業の「不安全な行動」と「不安全な状態」によって引き起こされるであろう危険の“現象”を“事故の型”でとらえ、次のようにズバリと言い切ります。

落ちる　ころぶ　ぶつかる　足を打つ　頭に当たる　挟まれる 巻き込まれる　下じきになる　手を切る　手をこする　やけどする 感電する　腰を痛める　腰をひねる　目にホコリが入る

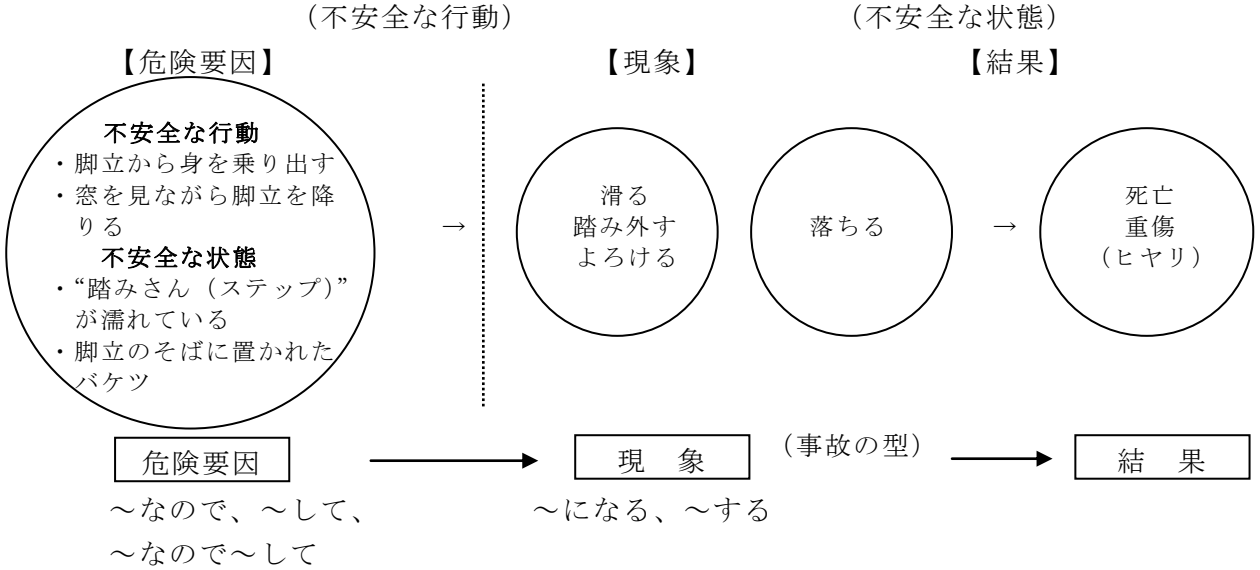
○「～かもしれない」「～の危険がある」「～の恐れがある」などはいりません。

○事故の結果[ケガ（ねんざ　骨折）死亡]については発言する必要はありません。

④　“危険要因”はできるだけ“不安全行動（動作)”と“不安全な状態”の組合せで表現しよう

危険要因は通常、「不安全な行動」と「不安全な状態」の組合せからなります。このため、危険要因を表現するときはできるだけ「不安全な行動」と「不安全な状態」が明らかになるよう表現します。

（例）窓の拭き具合を見ながら脚立を降りたので、濡れた“踏みさん（ステップ)”で滑って落ちる。



⑤　“危険要因”を掘り下げよう

（例）状況：あなたは、脚立を使って、窓ふきをしている。



（例えば）「よろけて落ちる」という危険が思い浮かびます。

なぜ“よろける”のか？

（例えば）「脚立がぐらつき、よろけて落ちる」

なぜ“脚立がぐらつく”のでしょうか？

（例えば）「脚立から離れた窓をふこうとして身を乗り出したので、脚立がぐらついて、よろけて落ちる」

このアンダーラインの部分　が、ＫＹＴで求められる“危険要因”です。

⑥　“危険要因”を具体的に表現しよう

具体的にするのは、お互いに分かり合い、気付きあうためです。

（例）「ムリな姿勢なので～」

「不安定なので～」

「～が悪いので」

という抽象的な表現だけでは、“何”が　“どのように”「ムリ、不安定、悪い」のかがお互いに分かり合えません。

そこで、例えば、

「中腰でもっているので～」

「つま先でたっているので～」

などと具体的に表現をします。

⑦　“危険要因”を肯定的に表現しよう

（例）安全帯をしていないので～

保護メガネをしていないので～

足場を固定していないので～

というように、対策を思い浮かべて「～していないので」といった否定的な危険要因の発言がよく出ます。

しかし、これだけでは、危険要因の中身が見えてきません。その危険の様子、その動きが見えてきません。

そこで、例えば

身を乗り出しているので～

顔を近づけているので～

足場がズレて動くので～

などと肯定的に表現します。

ただし、ここでいう否定的な表現とは、対策を思い浮かべた、例えば「安全帯をしていないので～」といった表現であって、「足元が見えないので～」といった客観的な状況を述べたにすぎない表現は含みません。

（２）ＫＹＴを実施するリーダーの心得

①　訓練計画を立てよう

リーダーは自分のチームで危険予知訓練を導入し定着させようとする場合、およその計画を立て、毎日やっても定着するのに半年ぐらいかかるつもりで、あせらず着実に実施しましょう。身近な、みんなに関心のあるテーマやイラストシートを選定したり準備したりするのは、リーダーの役割です。進捗状況を上司に報告し、指示を受けたり、スタッフなどの協力も得ましょう。

②　討議時間を縮めよう

「みんなで　早く　正しく」をモットーに、訓練はできるだけ連続的に実施しましょう。自分達の仕事がテーマなら慣れてくれば短時間でやれるようになります。回を重ねるごとに時間短縮していくのも重要な訓練です。しかし、いいかげんなＫＹＴにならないように、リーダーは常にＫＹＴ基礎４Ｒ法の正しい進め方を繰り返し習練して下さい。

③　危険の予知・発見が第一

イラストシートを見るとすぐ対策を言いたがる人がいます。第１Ｒはもっぱら“危険要因とそれによって引き起こされる現象”を予知・発見し、お互いに共有し合うラウンドです。リーダーは、「第１Ｒの“危険”のとらえ方と表現の仕方」をしっかり身につけ、アリアリと目に浮かぶようにメンバーが発言するようにリードをして下さい。これをふまえてリーダーは、ＫＹＴ基礎４ラウンド法に習熟して下さい。

④　範囲をせばめよう

イラストシートに描かれた状況が広範囲すぎる場合がありますが、短時間で行う場合には、特定部分に限定して話し合いましょう。現場で現物で実施する時も、範囲を単位業務のステップや動作に限定して行うことが必要です。

危険予知の対象のしぼり込み

○ 職場にどんな危険があるか
○ 今日の業務にはどんな危険があるか
○ この単位業務にどんな危険があるか
○ このステップにどんな危険があるか
○ この動作にどんな危険があるか

⑤　危険のポイントを漏らさずに

イラストシートから必ず発見してほしい項目は、リーダー自身あらかじめ勉強して明確にして下さい。リーダーは話し合いの中で、その項目を押し付けるのではなく、自然に浮かび出てくるような感じでメンバーに気づかせることができれば最高です。

⑥　不安全行動のみに限定せずに

故意に“物”の問題を避けて、作業者の不安全行動の摘出のみをさせるようなことはしてはいけません。職制が、現場からの不安全状態に関する問題提起や設備改善を求める声を率直に受け止めて解決しようとする姿勢がなく、職員の行動のみに危険の解決を押し付けるようなことではＫＹＴは決して職場に定着しない

し、その効果も期待できません。イラストシートによる訓練段階から、人・物の区別をしない方がよいです。

危険に対する感受性は、当然、不安全状態の発見・把握・解決に及びます。また作業手順の見直しなどにつながっていきます。

⑦　状況に応じてラウンドを使い分けよう

すべてについて第４ラウンドまでやらなければならないということはありません。ＫＹＴでは、第１ラウンド、第２ラウンドが重要で、ケースによっては第２ラウンドまででも足ります。「何が危険か」が分かり合えば、どうしたらよいかは通常知っているし、できるからです。「分かり合う」ことが大切だからです。状況（時間・場所・目的など）に応じて、手法やラウンドを使い分けるのもリーダーの手腕です。

⑧　指差し唱和で気合いを一致させよう

第２ラウンドの◎印の危険のポイント、第４ラウンドのチーム行動目標は必ず正しい姿勢で指差し唱和しましょう。全員で指差し唱和し、その目標について気合を一致させるのが指差し唱和です。さらに、一人ひとりが業務行動の要所要所で必ず指差し呼称をして確認することを習慣づけるためです。鋭く切り込む指差し呼称項目（１項目）を決め、指差し唱和をしましょう。もちろん、職場ではリーダーが率先垂範して指差し呼称をしましょう。

⑨　明るく気楽にやろう

ＫＹＴは楽しい雰囲気で行えるところに魅力があります。非現実的・空想的な項目が出て大笑いすることもありますが、話し合いの中で不自然なものは自然淘汰されます。リーダーは１項目１項目にあまり神経質にならずに、明るい雰囲気づくりに努力して下さい。ワイワイ・ドンドン・グングン・ソウダコレダという感じでホンネで話し合って下さい。

６　やってみよう　ＫＹＴ基礎４Ｒ法

準　備

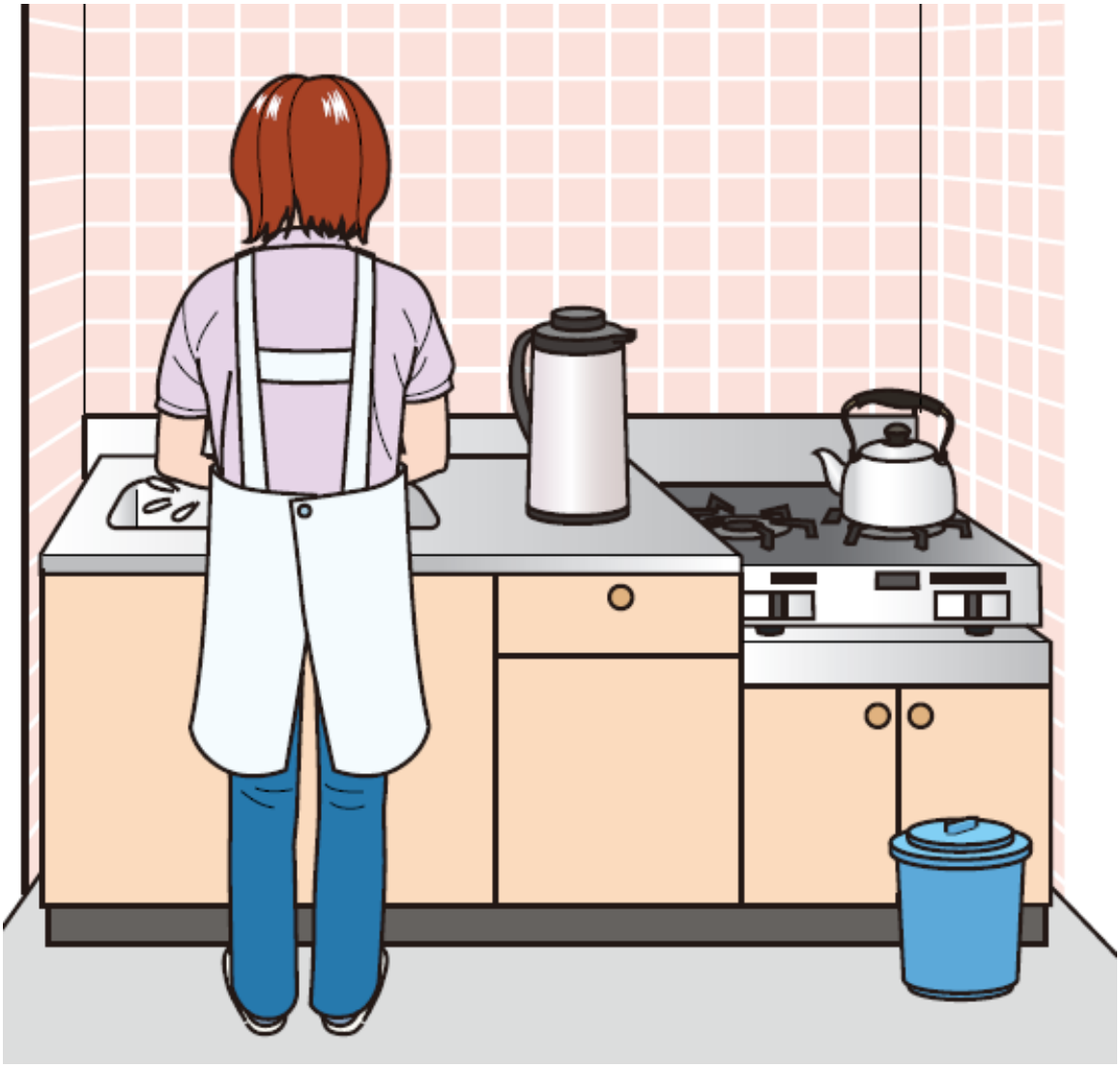
○イラストシート　「台所で洗い物」

○模造紙（マジック赤黒）　レポート用紙（サインペン赤黒）

○テーブル（模造紙を敷く）、椅子１脚（レポート係用）

どんな危険がひそんでいるか

業務名：台所で洗い物



状　況

あなたは、台所でお湯を沸かしながら、洗い物をしている。

危険予知訓練レポート

シートNo.	とき　・　・	ところ

チームNo.ーサブチーム	チーム・ニックネーム	リーダー	書 記	レポート係	発表者	コメント係	その他のメンバー
―							

第１ラウンド ＜どんな危険がひそんでいるか＞ 潜在危険を発見・予知し、**“危険要因”**と それによって引き起こされる**“現象”** を想定する。
第２ラウンド ＜これが危険のポイントだ＞ 発見した危険のうち、**「重要危険」**に ○印。さらにしぼり込んで、特に重要と思われる**“危険のポイント”**に ◎印。

“危険要因” と “現象(事故の型)” を想定して［～なので～して～になる］というように書く。

1

2

3

4

5

6

7

8

9

第３ラウンド＜あなたならどうする＞ “危険のポイント” ◎印項目 を解決するための **「具体的で実行可能な対策」**を考える。
第４ラウンド＜私達はこうする＞ **“重点実施項目”**をしぼり込み ※印。さらにそれを実践するための**“チーム行動目標”** を設定する。

◎印No.	※印	具　体　策	◎印No.	※印	具　体　策
		1			1
		2			2
		3			3
		4			4
		5			5
チーム行動目標 ～する時は ～を～して ～しよう ヨシ！			チーム行動目標 ～する時は ～を～して ～しよう ヨシ！		
指差し呼称項目			指差し呼称項目		

上司(ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ)コメント

７　ＫＹＴイラストシート集

１　介助業務

（１）車椅子への移乗
（２）ベッドへの移乗
（３）シーツ交換

２　清掃・片付け業務

（１）床清掃①
（２）床清掃②
（３）食後の片付け
（４）遊具の片付け
（５）浴室清掃
（６）棚の清掃
（７）ブラインド清掃

３　運搬業務

（１）ごみの廃却
（２）ダンボール箱積み込み
（３）荷物の積み替え
（４）ダンボール箱降ろし
（５）ロッカー運搬

４　一般業務

（１）ダンボール箱開梱
（２）蛍光灯交換
（３）容器入れ替え

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.1-(1)車椅子への移乗



状　況

あなたは、利用者をベッドから車椅子に移乗させようとしています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.1-(2)ベッドへの移乗



状　況

あなたは、利用者を車椅子からベッドに移乗させようとしています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.1-(3)シーツ交換



状　況

あなたは、利用者のシーツを交換しています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.2-(1)床清掃①

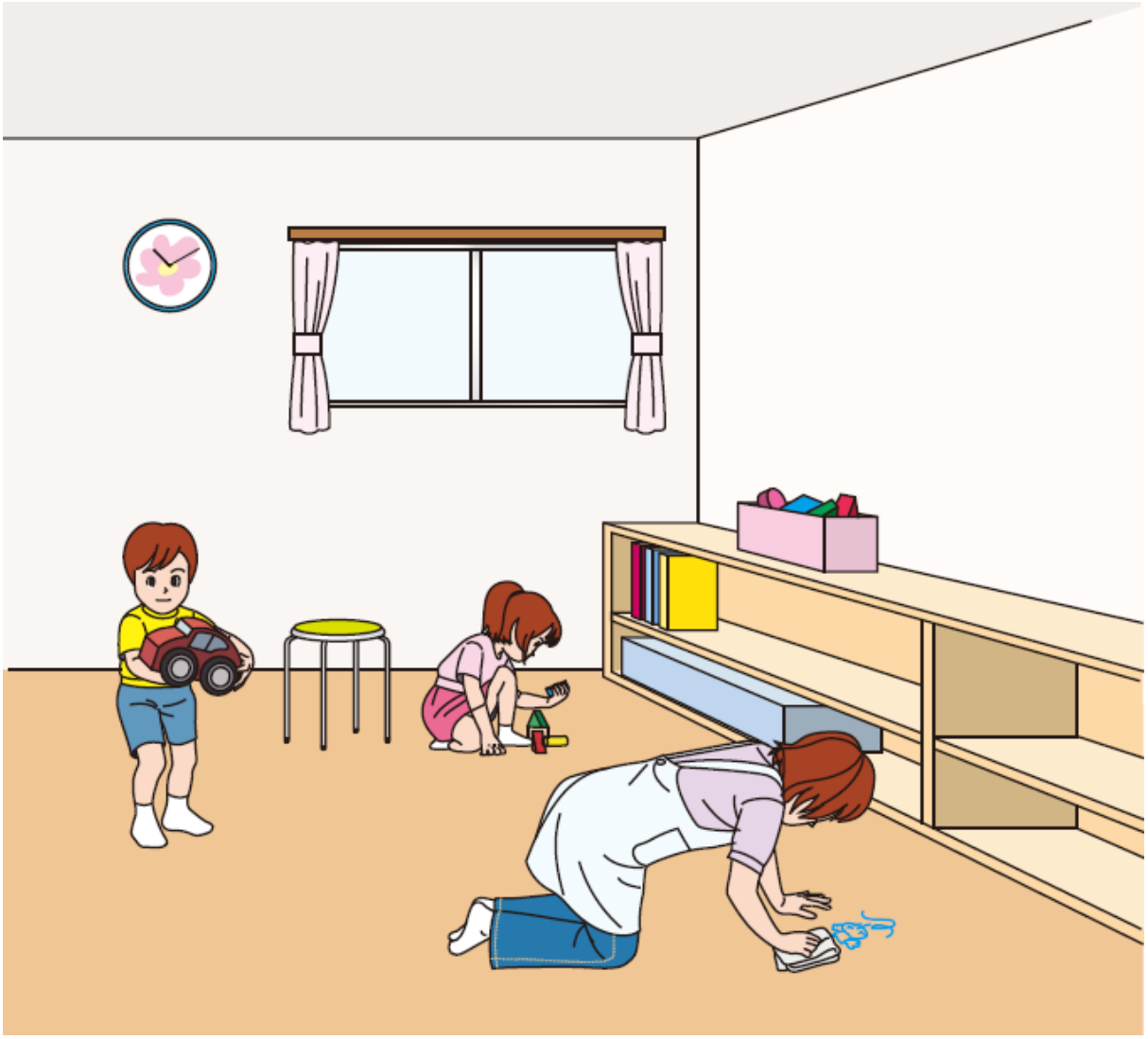


状　況

あなたは、2 階の床清掃を終了し、2 階から 1 階に移動しています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.2-(2)床清掃②

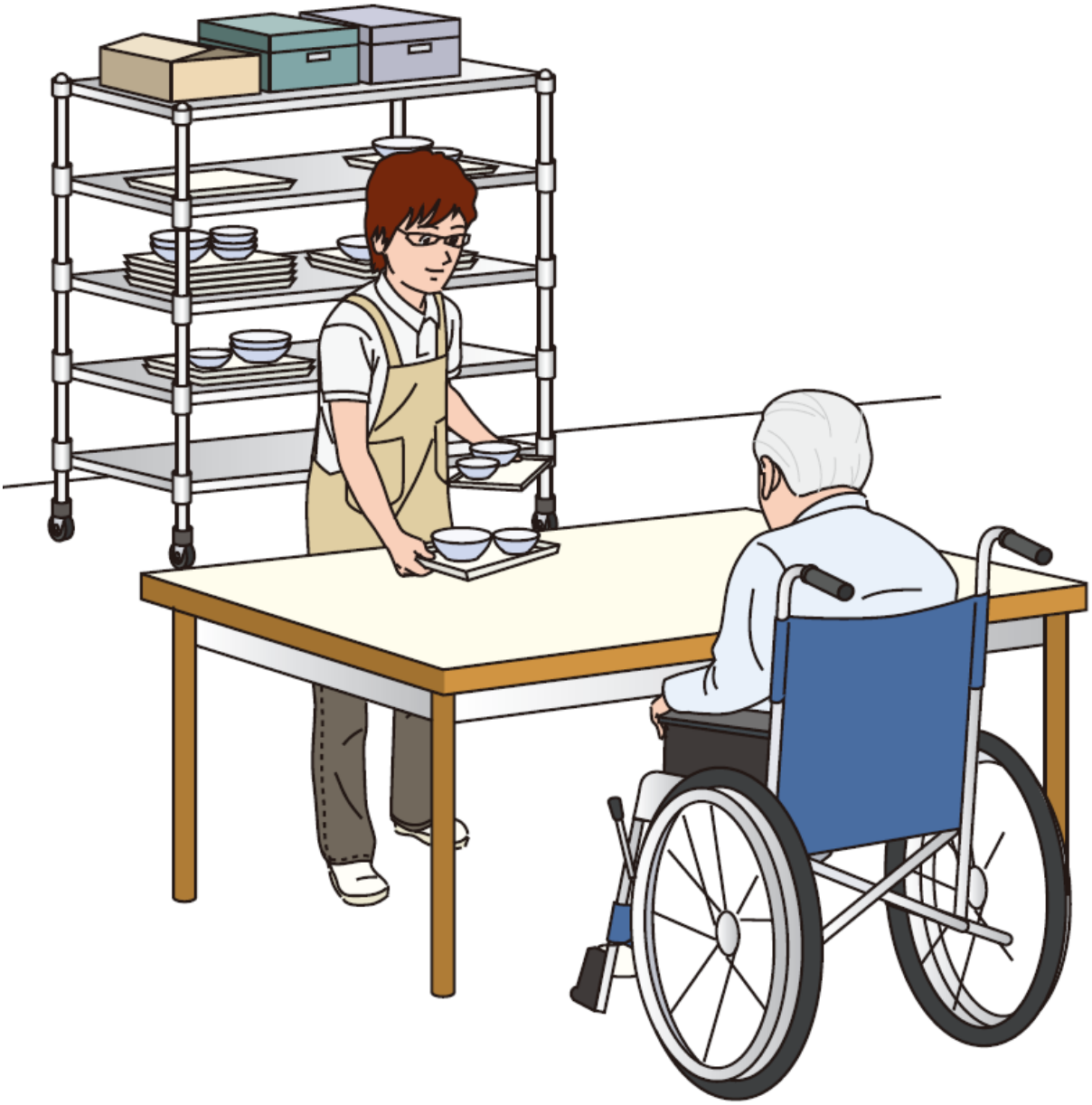


状　況

あなたは、床の落書きを清掃しています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.2-(3)食後の片付け



状　況

あなたは、食後の後片付けをしています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.2-(4)遊具の片付け



状　況

あなたは、子供たちの遊んだ遊具などを片付けています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.2-(5)浴室清掃



状　況

あなたは、浴室の清掃をしています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.2-(6)棚の清掃



状　況

あなたは、踏み台を使って棚の拭き掃除をしています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.2-(7)ブラインド清掃



状　況

あなたは、窓のブラインドを清掃しています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.3-(1)ごみの廃却



状　況

あなたは、ごみをカートに積んで廃却しています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.3-(2)ダンボール箱積み込み



状　況

あなたは、製品の入った段ボール箱（40cm×40cm×75cm、重さ 3kg）７箱をワゴン車に乗せようとしています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.3-(3)荷物の積み替え



状　況

あなたは、袋詰めの食材を台車に積み替えています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.3-(4)ダンボール箱降ろし



状　況

あなたは、積み上げられたダンボール箱を床に降ろしています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.3-(5)ロッカー運搬



状　況

あなたは、ロッカーを傾け、同僚がおさえている台車に載せようとしています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.4-(1)ダンボール箱開梱



状　況

あなたは、カッターナイフを使ってダンボール箱を開梱しています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.4-(2)蛍光灯交換



状　況

あなたは、廊下の蛍光灯を交換しています。

どんな危険がひそんでいるか

シートNo.4-(3)容器入れ替え



状　況

あなたは、18ℓ缶に入っている洗剤を別の容器に入れ替えています。

８　ＫＹＴ手法の活用

１　ヒヤリ・ハットの活用方法

ヒヤリ・ハットとは、災害にはならなかったが、ヒヤリとした、ハットしたという事故で、職場の危険が顕在化したものです。この体験は職場のみんなで共有し対策することで、同じ要因から発生する災害を未然に防止できるとても貴重な情報です。

（１）一人のヒヤリは全員で共有しよう

誰しも、何がしかのヒヤリの体験があるはずです。職場で体験したヒヤリは、恥ずかしがらずにドンドン出し、みんなで共有して、同じヒヤリ・ハットを繰り返さないようにしましょう。

ヒヤリ体験をしたらメモ用紙（ヒヤリ・ハット用紙）にすぐ記入し、朝礼や終礼で紹介したり、上司に報告したりして情報を共有します。

また業務中にこんな危険もあるよねと想定されるヒヤリ（想定ヒヤリ）も安全を先取りする上で有効です。

簡単な業務のイラストがあると状況がよく分かり話が進みます。

（２）職場の問題は職場で解決しよう

ヒヤリ・ハットは、職場で直ぐに解決するのが原則です。ヒヤリ・ハットが出てくるようになったら、重要なものはＫＹＴの手法を活用し、さらに確実な対策を立てるようにしましょう。

情報を共有し、みんなの話し合いで

「施設利用者の予期せぬ突発的な行動に対する安全活動・手法はないか？」という声があります。

これは、利用者に対策を求めることはできません。となると、職員自らが相手の行動を予知・予測して行動することが大事です。それには、日頃から職員間の情報交換を密にして利用者の行動特性を把握しておくことが重要です。

このことが、まさに“ＫＹ活動”といえます。

そして、これらいくつかの事例（ケース）について、職場で話し合った内容を残し、積み上げていけば貴重なノウハウとして活用できると思います。

この予期せぬ突発行動に対するＫＹを仕上げることも社会福祉施設における安全活動の課題と思います。

まず比較的簡単な事例をテーマに「ＫＹＴ基礎４Ｒ法」で話し合い、「職員行動づくり」を行います。その作成過程で良いアイデアが出てくるはずです。机上ではなく、実践活動の中で改善が生まれるのが“ＫＹ活動”です。

ヒヤリ・ハットメモ（参考例）

<table>
<tr><td colspan="3">ヒヤリ・ハット　メモ</td><td colspan="2">ヒヤリ・ハットＫＹＴ</td></tr>
<tr><td>年月日</td><td>職場名</td><td>氏　名</td><td colspan="2">ヒヤリ・イラスト</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>いつ</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>どこで</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>何が</td><td colspan="2"></td><td>1
R</td><td>（どんな危険がひそんでいるか）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どうした</td><td colspan="2" rowspan="3"></td><td>2
R</td><td>（危険のポイント）</td></tr>
<tr><td>3
R</td><td>（あなたならどうする）</td></tr>
<tr><td>4
R</td><td>（チーム行動目標）</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2">指差し呼称項目</td></tr>
</table>

２　交通ヒヤリマップでゼロ災運転

交通事故災害の発生は、社会問題となっており、平成 20 年の警察庁交通局統計によると、発生件数は年間 76 万 6,147 件、死亡事故は年間 5,025 件、負傷者数は減少傾向にあるものの、年間 94 万 5,504 人と今なお高い数値を示しています。

交通事故原因の大部分がヒューマンエラーに起因するものと言われています。

交通事故防止については、交通ＫＹ活動の中で、チームミ―ティングを中心に、交通ＫＹＴ基礎４ラウンド法や指差し呼称や交通ヒヤリマップ活動等の手法がありますが、社会福祉施設の交通安全の確保を考えた場合、車の送迎ルートが限定されていることから、交通ヒヤリマップの作成と活用について提案をします。

（１）車の運転の特徴

車の運転には、他の一般作業には見られない幾つかの特徴があります。

①　車の運転は１人作業です。

一般的な業務では、組織や管理監督者の目がありますが、車の運転は組織や職場のメンバーの目も届きません。運転者一人ひとりの行動と責任において行われています。

②　周囲の状況が常に変化します。

一般的な業務の場合、非定常作業を除いて大半が繰り返し行うものです。

しかしながら車の運転は、同じ道路であっても季節や気象状況、時間帯などで様々な変化があります。このため、様々な危険とその対策を頭に入れることが必要です。

③　対策を相手に求めることはできません。

運手者は、たとえ自分は法規に則った運転をしていたとしても、急に歩行者が飛び出してきたり、前の車が急ブレーキをかけたりした時、相手に対策を求められません。

このため、運転者は予めそれらの事態（相手）に対応できるような運転行動を取るとともに、それらの事態が生じた場合にはそれらに対応する的確な判断と事故を回避するための運転行動をしなければなりません。

（２）交通ヒヤリマップとは

施設の送迎用車両のルートや時間帯は、大体決まっていると思います。迎えと送りでは違いはあると思いますが、このルートないしエリア中で、運転者が体験した交通ヒヤリ・ハットをみんなで出し合い、マップに書出し、それを共有して安全運転に結びつける手法です。

一般的には、運行経路に沿って、白地図に過去の事故やみんなのヒヤリ体験を書き込んだ地図になります。種類によっては、駐車地点、連絡先、避難先なども書き込み業務メモにも使えます。

（３）交通ヒヤリは貴重な情報

交通事故の原因はいろいろありますが、最も大きな原因一つに、ちょっとした不注意や運転技能に対する過信です。

人身事故となるような大きな事故も、ほんのかすった程度の小さな事故も紙一重に過ぎないのです。そして事故にならなかったもののヒヤリとしたことは誰でも１回や２回、体験しているのではないでしょうか。その１人ひとりの貴重な体験をヒヤリ情報としてみんなの安全の先取りのために活用すれば、交通安全対策はもっと身近になり交通事故ゼロに大きく貢献するものと思います。

交通ヒヤリマップの効果は大きく分けて３つあります。

第１は､交通ヒヤリマップを作ることによって危険に対する感受性を鋭くします。

第２は、ミーティングでヒヤリ・ハットについて話合うことにより、それまで１人ひとりのものでしかなかった危険情報が共有できることです。

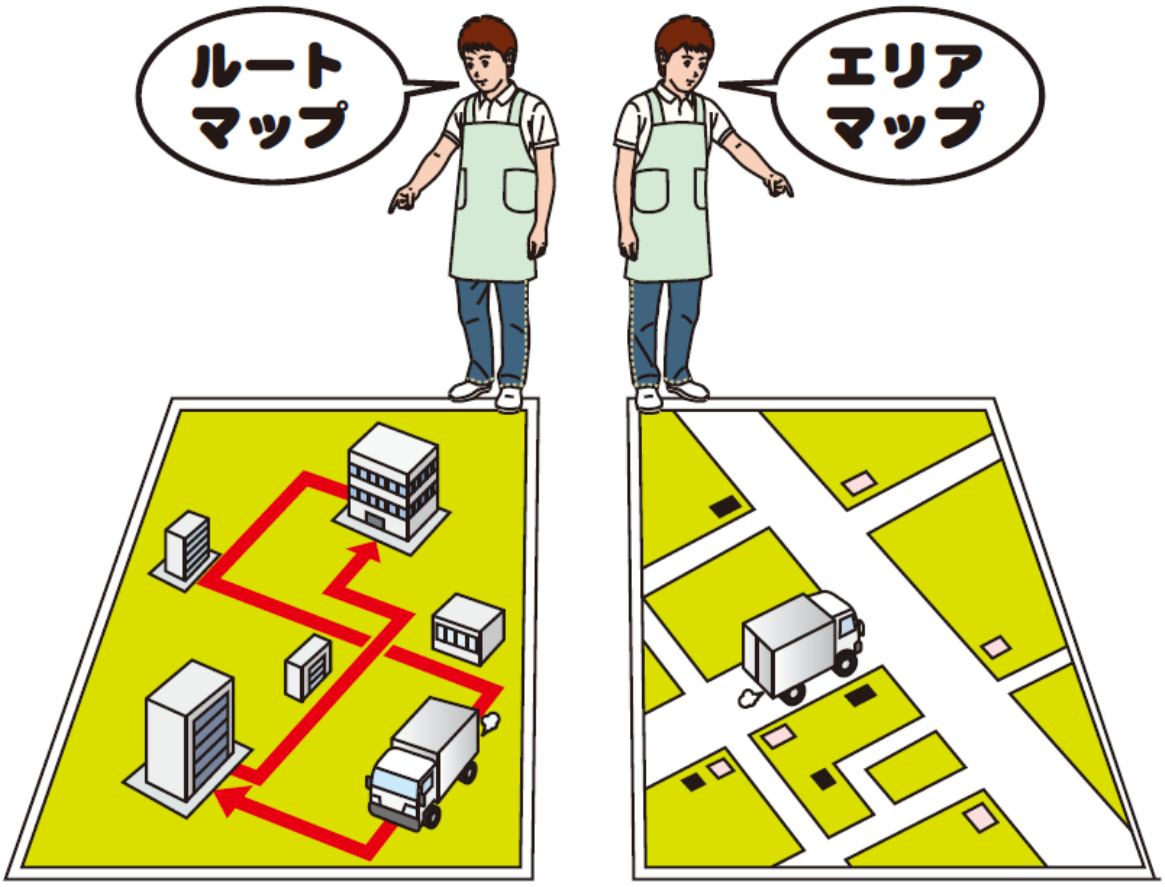
第３は、その結果、運転者１人ひとり、適切な判断と運転行動ができるということです。

（４）交通ヒヤリマップの作り方

①　ルートマップとエリアマップ

交通ヒヤリマップにはその目的によってルートマップとエリアマップの２つがあります。ルートマップは、決まったルートに沿って巡回する目的で作成するもの、エリアマップは運行する地域がある程度決まっている場合に作成するものです。

この２つのうちそれぞれの業務に合ったヒヤリマップを作成し、活用しましょう。一人ひとりのヒヤリ・ハット情報を、みんなで共有し、ゼロ災運転に大いに役立てて下さい。



②　作成手順（ルートマップの場合）

ルート図は、業務用の順路図があればそれを使ってよいし、白地図上にルートを示す線を引いても良いでしょう。また、概略図を書き、進行経路は太い線で表して、信号などの記号を記入するなどして、自作しても構いません。（図 3-8-1）

地図が用意できたら、会社からルートに沿ってみんなでヒヤリ箇所や事故発生箇所を出し合っていきます。

ア　ヒヤリ箇所に×印をつけ、ヒヤリの内容をラベルに書きます。事故発生箇所には⊗印をつけるとわかりやすいです。

イ　全部出そろったら、ラベルにNo.をつけ地図の余白に貼っていきます。

ウ　No.順に皆で話し合いながら、ヒヤリの要点の下に、対策は青で、指差し呼称項目は赤で記入します。

記号を入れて分かりやすく

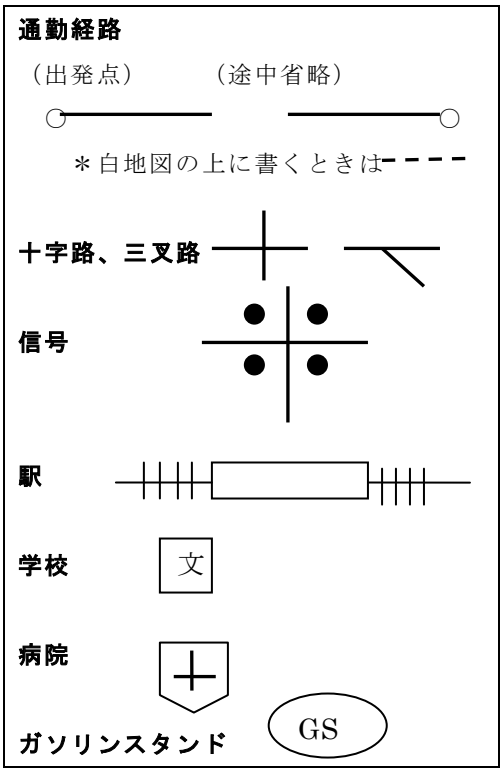


図 3-8-1　地図記号の例

③　交通ヒヤリマップを見直す

これで、交通ヒヤリマップが一応出来上がりました。でも、これで完成したわけではありません。道路工事や天候などによって変わってしまう交通状況、また、新たなヒヤリ体験も発生します。

そこで、３カ月ごと、季節の変わり目ごとに見直して書き直すことにより、ヒヤリマップを生きた、そして効果のあるものにすることができます。



④　交通ヒヤリマップの活かし方

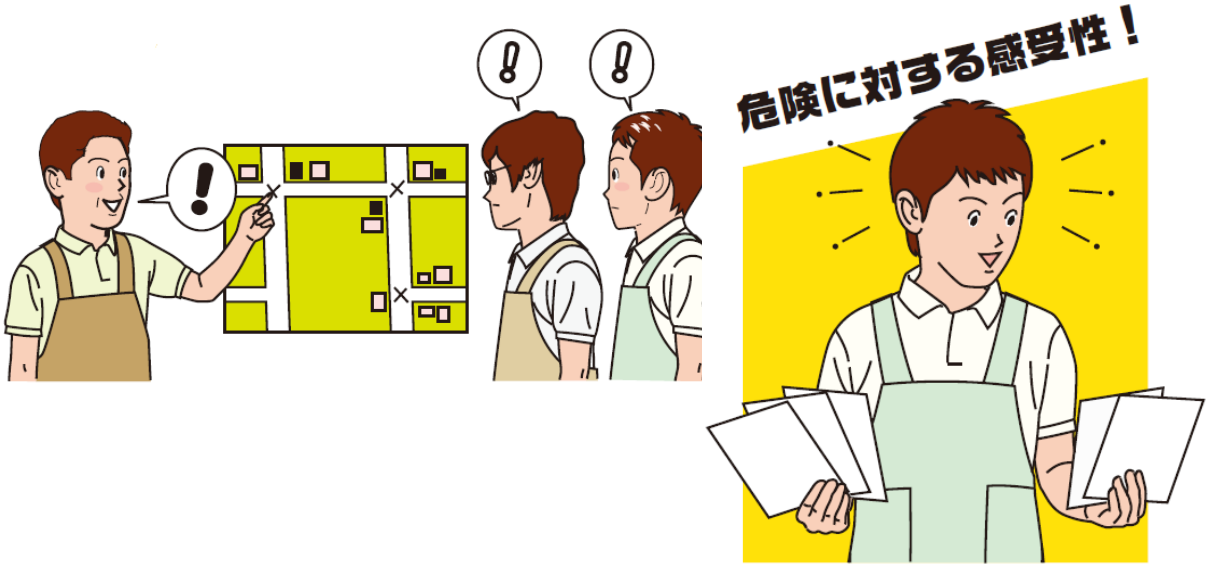
ア　管理監督者の活用

朝のミーティングの時など、管理者、監督者あるいはグループのリーダーが、その日の業務内容について説明や指示を行うときに、交通ヒヤリマップを利用した業務指示をしましょう。

業務指示は、現地での業務内容について指示するだけでなく、行き帰りの運転についても、的確な指示が必要です。ただ、「運転に気をつけて」だけでなく、交通ヒヤリマップを取り出し、どこが危険か？対策は？と、ポイントを示して行うのです。もちろん、メンバーから意見を求めることも忘れてはなりません。そして、危険のポイントに対する指差し呼称項目をみんなで唱和確認しましょう。

イ　交通ヒヤリＫＹＴ

ヒヤリマップ上に×印のついた箇所について、イラストシートを作り、短時間ＫＹＴを行って、危険に対する感受性を研ぎすましましょう。



送迎車交通ヒヤリマップ（参考例）

経路　園→Ｄ→Ｂ→Ａ→Ｃ→園

**シートベルトは利用者にも
必ず着用させよう　ヨシ！**

